

2019年度

講義要項

社会福祉学科

西日本短期大学

目 次

社会福祉学科

< 1 年次開講科目 >

基礎科目

心理学	1
総合演習 I A	2
総合演習 I B	3
英語 I	4
英語 II	5
茶道文化 I	6
茶道文化 II	7

専門科目

社会福祉概論 A	8
社会福祉概論 B	9
障害の理解	10
障害者福祉論	11
認知症 A	12
認知症 B	13
人体構造と疾病 A	14
人体構造と疾病 B	15
人体構造と疾病 C	16
介護の基本 I	17
介護の基本 II	18
コミュニケーション技術 A	19
コミュニケーション技術 B	20
生活支援技術 (移動 A)	21
生活支援技術 (移動 B)	22
生活支援技術 (環境)	23
生活支援技術 (食事)	24
生活支援技術 (アクティビティ)	25
介護過程 I	26
実習指導 A	27
実習指導 B	28
介護実習	29
芸術療法	30
癒しのケア	31
福祉情報技術演習	32
介護の基礎 I	33
介護の基礎 II	34

< 2年次開講科目 >

基礎科目

社会福祉援助論	35
高齢者健康学	36
総合演習Ⅱ A	37
総合演習Ⅱ B	38

専門科目

発達と老化の理解	39
障害者福祉論	40
介護の基本Ⅳ	41
介護の基本Ⅴ	42
家政学演習	43
生活支援技術（食事）	44
生活支援技術（排泄）	45
生活支援技術（家事・終末期）	46
生活支援技術（障害形態別）	47
生活支援技術（総論）	48
介護過程Ⅱ A	49
介護過程Ⅱ B	50
医療的ケア A	51
医療的ケア B	52
医療的ケア C	53
国家試験特講 A	54
国家試験特講 B	55
介護実習	56
障害児支援論	57
児童福祉論	58
障害児・者スポーツ論	59
障害児・者スポーツ演習	60
園芸福祉	61
手話	62
レクリエーション活動援助法Ⅱ	63
介護の基礎Ⅲ	64

心理学

Psychology

《 2 単位(講義) / 1 年前期 / 卒業必修・介護福祉士必修 》

1 年

担 当 者

城 戸 由香里

授 業 到 達 標

人のこころの働きを理解する。他者とのより良い関係をつくる力を育てる。又、介護福祉士となった時に必要な、高齢者や、障害者の心について学び広い視野をもって職に就く準備とする。さらにストレスについて学ぶ。

授 業 内 容

- ・こころの働きの基礎 (情動、認知、意欲など)
- ・人間の尊厳とは
- ・健康
- ・ストレス

準備学習等の
内 容

授業中のポイントを時間の中でしっかり押さえ、復習をする。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	序章「健康」とは何か (p 2～7)	
2	これから学ぶこと・自分の心を知ろう (p 8～9)	
3	こころのしくみを理解する (p 10～14)	
4	〃 (p 15～19)	
5	こころのしくみの基礎 (p 20)	
6	〃 脳のしくみ (p 20～22)	
7	〃 学習・記憶・思考 (p 22～25)	
8	〃 感情 (p 25～26)	
9	〃 認知 (p 26～27)	
10	〃 意欲・動機づけ (p 28～29)	
11	〃 適応 (p 29～31)	
12	死にゆく人に関連したしくみ (p 268～297)	
13	復習 (総括)	
14	復習 (総括)	
15	まとめ	
教科書	参考書・参考文献	評価基準
新・介護福祉士養成講座14巻こころとからだのしくみ 中央法規		試験・提出レポート・授業態度を6：2：2の割合で評価する。

総合演習 I A

General Practice I A

《 1 単位(演習) / 1 年前期 / 卒業必修・介護福祉士必修 》

担 当 者

川井小百合・中野幹子・片山悟・一山幸子・折居明日香・田邊伸一・山本恭大

授 業 到 達 標

- ・新しい生活環境へ適応し、変化に対する円滑な対応と、豊かな人間性、高い倫理観を養うことができる
- ・社会に貢献できる福祉職としての自覚を持つことができる
- ・自己を知り、他者の気持ちを感じ取り、人間理解を深め、福祉援助者としての考え方や心構えを持てるようになる

授 業 内 容

- ・健全で充実した学生生活への適応を促し、学修への意欲を高められるよう支援します
 - ・体験学習に参加するなど実践を通して、建学の精神に基づく基礎的な知識を身につける指導を行います
- (授業日程の詳細は配布プリントを確認 ※授業内容により2コマ連続になる)

準 備 学 習 等 の 内 容

西日本短期大学や地域、クラスメート、教職員等新しい環境に慣れ、社会に貢献できる人となるよう自分自身を高めていきましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	自己紹介・役員選出		
2	1・2年生合同レクリエーション		
3	〃		
4	担当教員面談		
5	〃		
6	メンタルヘルス講習		
7	マナー講座		
8	施設見学		
9	〃		
10	お礼状作成		
11	就職模試(全学科共通特別科目)		
12	担当教員面談		
13	実習施設ガイダンス		
14	〃		
15	まとめ		
教科書		参考書・参考文献	評価基準
必要に応じてプリント配布		新 介護福祉士養成講座10 「介護総合演習・介護実習」 中央法規	受講態度50%、試験結果50%を総合的に評価する

総合演習 I B

General Practice I B

《 1 単位(演習) / 1 年後期 / 卒業必修・介護福祉士必修 》

1 年

担 当 者

折居明日香・中野幹子・片山悟・一山幸子・川井小百合・田邊伸一・山本恭大

授 業 到 達 標

- ①職業適性検査や実習・就職ガイダンス、個別指導等を通じて自分自身の適性や傾向、自己課題を見つめ直し、自分の進路について方向性を定めることができる。
- ②学外演習や文化祭行事における企画、準備、実践というクラス、学科、短大全体でのグループワークにより、対人関係能力、コミュニケーション能力、企画実施能力を高めることができる。
- ③クラス個別指導を通じて介護実習に関する各種記録物の書き方を理解し、記述する力、他者に説明する力を向上させていくことができる。

授 業 内 容

- ①進路指導の一環として、職業適性検査、実習・就職ガイダンスを実施する。
- ②学外演習、文化祭を企画、実施する。
- ③実習指導Bと連動して、介護実習に関する記録物を中心に個別指導を行う。

準 備 学 習 等 の 内 容

実習日誌などの記録物について、グループ別に分かれて手厚い個別指導を行っていきます。漢字、美文字、文章構成等、読み書きのトレーニングは、日々の努力が不可欠です。コツコツと記述の練習を積み重ねていき、また提出期限を厳守しましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

授 業 テ ー マ		
1	「実習日誌 (ボランティア編)」個別指導	
2	学外演習、文化祭 企画	
3	進路・職業適性検査	
4	担当教員面談	
5	文化祭準備	
6	進路・適性検査 結果説明会	
7	文化祭参加	
8	「実習日誌 (学外演習)」個別指導	
9	実習(I)-1 実習直前指導	
10	実習(I)-1 事後指導記録物整理、送付書類準備	
11	介護実習施設及び就職ガイダンス	
12	「実習日誌」個別指導	
13	実習(I)-2 準備「実習計画書」個別指導	
14	担当教員面談	
15	実習(I)-2 準備「プロセスレコード」個別指導	
教科書	参考書・参考文献	評価基準
本学作成の「介護実習要綱」		受講態度・提出物 (40%) 筆記試験 (60%) を総合的に評価する

英語 I

English I

《 1 単位(演習) / 1 年前期 》

1 年

担 当 者

西 村 紀 子

授 業 到 達 標 目

中学までに学んだ基礎的な文法、語彙を確認しながら、日常会話に必要な表現を中心に学習を進める。英語力に必要な基本的文法構造を学び、習得し基礎的語学力を身につける。

授 業 内 容

日常会話でよく使う表現の「文型」を多くあげ、自分で文を組み立てる練習を楽しく行っていきます。

準 備 学 習 等 の 内 容

復習の徹底。毎回授業の始めに前回の授業の復習を行います。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	コースの目標と内容の説明		
2	品詞について		
3	一般動詞と Be 動詞を区別する		
4	練習		
5	時制（現在形、過去形、現在進行形、過去進行形）		
6	練習		
7	文の種類（肯定文、否定文、疑問文）		
8	練習		
9	頻度の高い動詞句（希望、予定、強制）		
10	練習		
11	接続詞で短文をつなぐ		
12	練習		
13	疑問詞を使う疑問文		
14	練習		
15	まとめ		
教科書		参考書・参考文献	評価基準
教科書なし 必要に応じてプリント配布		「英会話の基本文型87」	平常点（70%）+ 期末テスト（30%）

英語Ⅱ

English Ⅱ

《 1 単位(演習) / 1 年後期 》

1 年

担 当 者

西 村 紀 子

授 業 到 達 標 目

英語Ⅰで学んだ基礎文法を応用して活用できるようにする。日常の身の回りの事柄を自分の言葉で発話できるようにする。

授 業 内 容

ロールプレイ、ペアワークによる練習。英語の音を学び、抵抗なく発話する力を身につける。

準 備 学 習 等 の 内 容

復習の徹底。毎回授業の始めに前回の授業の復習を行います。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	基礎文法の確認	
2	クラスルームランゲージ	
3	「人」が中心の表現	
4	練習	
5	「もの」が中心の表現	
6	練習	
7	助動詞を使った表現	
8	練習	
9	完了	
10	練習	
11	依頼、命令表現	
12	練習	
13	勧誘表現	
14	練習	
15	まとめ	
教科書	参考書・参考文献	評価基準
教科書なし。 必要に応じてプリント配布	「英会話の基本文型87」	平常点 (70%) + 期末テスト (30%)

茶道文化 I

Culture of Tea Ceremony I

《 1 単位(演習) / 1 年前期 》

1 年

担 当 者

石 川 嘉 子

授 業 到 達 目 標

茶道を学ぶ事によってもてなしの心を身につけます。
点てられた一盃に感謝を捧げ素直に一盃をいただくことから始まります。
もてなす側の亭主と客はその心に応えることで「一座建立」を図るのが茶道です。

授 業 内 容

裏千家茶道は初心者にもわかりやすく学ぶ事が出来るように修道体系を道(どう)学(がく)実(じつ)の三要素に区分し楽しみながら生涯を通して日本文化への造詣を深めます。発見と感動を茶道を通して身につけます。

準備学習等の
内 容

日常生活での礼儀作法・挨拶・立居振舞など

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	茶室での所作、挨拶・襖の開・閉など				
2	〃	〃			
3	〃	帛紗のたたみ方			
4	〃	帛紗・扇子の扱い方など			
5	客の心得、菓子のいただき方、お茶のいただき方	茶花と花入			
6	〃	〃	〃	〃	〃
7	割稽古、帛紗のさばき方①		〃	〃	
8	〃	茶筌・茶巾の扱い、茶碗の拭き方②		〃	〃
9	〃	〃	〃	③	〃
10	盆略点前	亭主と客の役割①		〃	〃
11	〃	〃	②		〃
12	〃	〃	③		〃
13	柄杓の扱い方(風炉)			〃	〃
14	〃	〃		〃	〃
15	運び薄茶点前(前半)まで(風炉)			〃	〃

教科書	参考書・参考文献	評価基準
帛紗セット一式 約¥3,700	「裏千家茶道」 千宗室・千玄室監修 (学校茶道教本編集委員会)	実技(40%)、受講態度(60%)

茶道文化Ⅱ

Culture of Tea Ceremony Ⅱ

《 1 単位(演習) / 1 年後期 》

1 年

担 当 者

石 川 嘉 子

授 業 到 達
目 標

お茶の精神、千利休の唱えた「和・敬・静・寂」の四文字に示される大切な心を更に深めてゆく。

授 業 内 容

和—お互い同志が仲良く和し合うこと
敬—尊敬の敬でお互い同志が敬い合い自らを慎むこと
清—清らかという意味、見た目だけではなく心の清らかさをさします
寂—どんな時にも動じない心のこと

準備学習等の
内 容

亭主と客の役割の認識を深める。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ		
1	運び薄茶点前 (前半) まで (風炉)	茶花と花入
2	〃 〃	〃 〃
3	〃 〃 終了まで	〃 〃
4	露地について、茶庭の役割	〃 〃
5	花と花入・風炉の季の花・炉の季の花	
6	運び薄茶点前 (炉) 道具の位置	茶花と花入
7	〃 〃	〃 〃
8	〃 点前の (前半) まで	〃 〃
9	〃 〃	〃 〃
10	〃 点前の終了まで	〃 〃
11	〃 〃	〃 〃
12	〃 〃	〃 〃
13	薄茶棚点前 (炉)	〃 〃
14	〃 〃	〃 〃
15	〃 〃 お茶会形式で仕上げます	
教科書	参考書・参考文献	評価基準
帛紗セット一式 約¥3,700	「裏千家茶道」 千宗室・千玄室監修 (学校茶道教本編集委員会)	実技 (40%)、受講態度 (60%)

社会福祉概論 A

Introduction to Social Welfare A

《 2 単位(講義) / 1 年前期 / 介護福祉士必修 》

1 年

担 当 者

片 山 悟

授 業 到 達 目 標

人間の生活と社会との関わり、自助から公助に至る過程を理解することにより、個人が自立した生活を営むということは何かを考え、理解することができるようになる。また、日本の社会保障制度の基本的な考え方、歴史と変遷、そのしくみなどについて説明できるようになる。

授 業 内 容

- 1 個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや自助から公助に至る過程について理解する。
- 2 わが国の社会保障システムについて学習する。

準 備 学 習 等 の 内 容

教科書を使用しながら授業を展開する。受講生は、予習しておく必要がある。テキストに出てくる専門用語や制度等については、自ら辞典や参考書等で調べ事前の準備を怠らないことが重要である。また、新聞や雑誌などからできるだけ多くの情報を収集することを心掛けて欲しい。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	生活と福祉① 家族生活の基本機能
2	生活と福祉② 家族
3	生活と福祉③ 地域
4	生活と福祉④ 社会、組織
5	生活と福祉⑤ ライフスタイルの変化
6	生活と福祉⑥ 社会構造の変容
7	生活と福祉⑦ 生活支援と福祉
8	社会保障制度① 社会保障の基本的な考え方
9	社会保障制度② 憲法と社会保障
10	社会保障制度③ 国民皆保険、国民皆年金、その他
11	社会保障制度④ 社会保障制度の現状と今後の展望
12	社会保障制度⑤ 日本の社会保障制度のしくみ
13	社会保障制度⑥ 日本の社会保障制度の基本的な考え方
14	社会保障制度⑦ 現代社会における社会保障制度
15	まとめとふりかえり

教科書

『社会の理解』
介護福祉士養成講座編集委員会
中央法規

参考書・参考文献

評価基準

授業への参加姿勢 (10点)、提出物等の状況 (10点)
定期試験の結果 (80点)
合格点基準60点/満点100点

社会福祉概論B

Introduction to Social Welfare B

《 2単位(講義) / 1年後期 / 介護福祉士必修 》

1年

担 当 者

片 山 悟

授 業 到 達 目 標

介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度と障害者総合支援法等について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を理解し、法制度の基本的な考え方や仕組みなどを理解できるようになる。

授 業 内 容

- 1 介護に関する最も基本的な法律である、介護保険制度の内容について理解を深める。
- 2 障害者の自立を支援するための法律である、障害者総合支援法の内容について把握する。
- 3 個人情報保護や成年後見制度などの基礎的知識を習得する。

準 備 学 習 等 の 内 容

日常生活の中で社会福祉について問題意識を常にもって欲しい。さらに、トピックスや新聞、専門雑誌、専門書などからの情報収集を行い、自ら調べたり、考えるという習慣を身につけてもらいたい。勿論、受講生として教科書を前もって予習していただくことが前提条件となる。さらに、授業で学習したことを、復習するとともに、ノートにきちんと整理して欲しい。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	介護保険制度① 介護保険制度創設の背景及び目的
2	介護保険制度② 介護保険制度の動向
3	介護保険制度③ 介護保険制度の仕組みの基礎的理解
4	介護保険制度④ 介護保険制度における組織及び役割
5	介護保険制度⑤ 介護保険制度における専門職の役割
6	介護実践に関連する諸制度①
7	介護実践に関連する諸制度②
8	障害者総合支援法① 障害者総合支援法創設の背景
9	障害者総合支援法② 障害者総合支援法の目的
10	障害者総合支援法③ サービスの種類と体系
11	障害者総合支援法④ 事業所と施設、専門職の役割
12	障害者総合支援法⑤ 市町村の機能及び役割
13	介護実践に関連する諸制度③
14	介護と関連領域との連携、保健医療福祉に関する政策
15	まとめとふりかえり

教科書

参考書・参考文献

評価基準

『社会の理解』
介護福祉士養成講座編集委員会
中央法規

授業への参加姿勢 (10点)、提出物等の状況 (10点)
定期試験の結果 (80点)
合格点基準60点/満点100点

障害の理解

Understanding of Disorders

《 2 単位(講義) / 1 年後期 / 卒業必修・介護福祉士必修 》

1 年

担 当 者

川 井 小百合

授 業 到 達 標

- ①身体・精神・知的障害の特性や、障害のある人の心理・身体機能など基礎的知識を理解できる。
- ②障害に応じた生活支援の視点を学び、環境への配慮やチームアプローチについて考えることができる。

授 業 内 容

具体的な事例を交えながら、画像や実例を用いた授業を行う。

準備学習等の
内 容

障害には種類が多いため、できるだけ予習のために教科書を読むようにしてください。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

授 業 テ ー マ		
1	オリエンテーション	
2	障害の基礎的理解：障害の概念	
3	障害の基礎的理解：障害者福祉の基本理念	
4	障害のある人の生活の理解：視覚障害のある人の生活	
5	障害のある人の生活の理解：聴覚・言語障害のある人の生活	
6	障害のある人の生活の理解：重複障害のある人の生活	
7	障害のある人の生活の理解：肢体不自由のある人の生活	
8	障害のある人の生活の理解：知的障害のある人の生活	
9	障害のある人の生活の理解：精神障害のある人の生活	
10	障害のある人の生活の理解：高次脳機能障害のある人の生活	
11	障害のある人の生活の理解：発達障害のある人の生活	
12	障害のある人の生活の理解：重症心身障害のある人の生活	
13	障害のある人の生活の理解：内部障害のある人の生活	
14	障害のある人の生活の理解：難病のある人の生活	
15	まとめ	
教科書	参考書・参考文献	評価基準
「障害の理解」介護福祉士養成講座、中央法規出版	介護福祉士国試ナビ 中央法規出版	授業態度やレポート提出状況20点、試験の結果80点 欠席6回以上で失格となる

障害者福祉論

Theory of Welfare for the Disabled

《 2単位(講義) / 1年後期 / 卒業必修・介護福祉士必修 》

1年

担 当 者

一 山 幸 子

授 業 到 達 標

- ①障害の基礎的理解として「障害の概念」や「障害者福祉の基本理念」について説明することができる。
- ②障害のある人の体験を理解し、障害が及ぼす心理的影響や障害の受容、日常生活への影響を生活支援技術と関連づけて説明することができる。
- ③障害のある人の自立支援を行うための「地域におけるサポート体制」、「チームアプローチ」、「家族への支援」について説明することができる。
- ④「障害者総合支援法」の概要を説明することができる。

授 業 内 容

- ①障害の基礎的理解として「障害の概念」「障害者福祉の基本理念」について学ぶ。
- ②知的障害、発達障害の原因と特性、障害が及ぼす心理的影響や障害者手帳制度等について精神科医より学ぶ。
- ③地域自立支援協議会や他職種との連携、家族支援について学ぶ。
- ④障害者総合支援法、特別支援教育の仕組みについて学ぶ。

準 備 学 習 等 の 内 容

- ・障害児者や高齢者に関わるボランティア活動に積極的に参加し、障害児者や高齢者、そして家族と直接関わることによって、当事者及び家族のニーズを理解して下さい。
- ・新聞、テキスト、参考文献、配布プリントなどをしっかり読み、重要語句をノートにまとめて予習・復習をして下さい。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	障害の基礎的理解 (障害の概念)	
2	障害の基礎的理解 (障害の捉え方、ICIDH と ICF)	
3	障害の基礎的理解 (障害福祉の基本理念)	
4	障害の医学的側面の基礎的知識 (知的障害)	
5	障害の医学的側面の基礎的知識 (発達障害)	
6	障害の医学的側面の基礎的知識 (障害児・者の心理)	
7	連携と協働 (地域におけるサポート体制)	
8	連携と協働 (チームアプローチ)	
9	家族への支援 (障害受容の過程)	
10	家族への支援 (家族のレスパイトケア)	
11	障害者基本法	
12	障害者差別解消法	
13	障害者総合支援法①	
14	障害者総合支援法②	
15	まとめ	
教科書	参考書・参考文献	評価基準
「介護福祉士国試ナビ」中央法規	最新・介護福祉士養成講座「障害の理解」・「介護の基本Ⅰ」中央法規、「障害者福祉論」全社協、「介護福祉用語辞典」「社会福祉用語辞典」ミネルヴァ	受講態度・復習テスト…30% 筆記試験…70%

認知症 A

Dementia of the Aged A

《 2 単位(講義) / 1 年前期 / 卒業必修・介護福祉士必修 》

1 年

担 当 者

折 居 明日香

授 業 到 達 標 目

- ①医学的側面から見た認知症の基礎的知識を理解し、説明することができる。
- ②認知症ケアの歴史や取り巻く社会の状況を理解し、説明することができる。

授 業 内 容

認知症の人やその家族への支援を行うために必要な、知識や考え方を習得する科目です。
前半は、医学的側面の基礎知識について、後半は、認知症をとりまく社会的背景について学んでいきます。

準 備 学 習 等 の 内 容

知識を暗記するだけでなく、認知症の人へのケアに結び付けることができるように、日頃から新聞やテレビ、介護雑誌等の認知症に関する情報を取り入れるように心がけましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	オリエンテーション： <u>認知症とは</u>		
2	<u>医学的側面から見た認知症の基礎</u> ：脳のしくみ		
3	<u>医学的側面から見た認知症の基礎</u> ：認知症の定義		
4	<u>医学的側面から見た認知症の基礎</u> ：認知症の原因疾患とその症状		
5	小テスト		
6	<u>医学的側面から見た認知症の基礎</u> ：認知症による障害		
7	〃		
8	〃		
9	小テスト		
10	<u>医学的側面から見た認知症の基礎</u> ：認知症とまちがえられやすい症状		
11	<u>医学的側面から見た認知症の基礎</u> ：認知症の検査、治療		
12	<u>認知症を取り巻く状況</u> ：認知症ケアの歴史		
13	<u>認知症を取り巻く状況</u> ：現状と将来予測、行政の方針と施策		
14	小テスト		
15	まとめ		
教科書		参考書・参考文献	評価基準
必要に応じてプリント配布		新・介護福祉士養成講座12「認知症の理解」中央法規出版	試験80%、レポート・受講態度20%

認知症B

Dementia of the Aged B

《 2単位(講義) / 1年後期 / 介護福祉士必修 》

1年

担 当 者

折 居 明日香

授 業 到 達 目 標

- ①認知症の人の行動・心理を理解し、状況に応じた配慮や支援を習得することができる。
- ②地域におけるサポート体制や家族への支援を理解し、説明することができる。
- ③認知症の人に対する介護過程の考え方を理解することができる。

授 業 内 容

認知症の人の行動や心理について理解し、認知症の人や家族への支援を学ぶ科目です。認知症の人の気持ちを推察し、その場に応じた様々なケアの方法を学びます。認知症の人と実際に関わる場面で活かすことができるよう、しっかり理解していきましょう。

準 備 学 習 等 の 内 容

視聴覚教材や演習も取り入れ、授業を進めていきます。認知症の人へのケアの実際に結び付けることができるように、日頃から新聞やテレビ、介護雑誌等の認知症に関する情報を取り入れるように心がけましょう。実習で認知症の人に積極的にかかわり、実践的に学んでください。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	オリエンテーション：前期復習	
2	認知症の人の介護：認知症の人の心理的理解	
3	認知症の人の介護：基本的な介護	
4	認知症の人の介護：日常生活の支援	
5	認知症の人の介護：感覚を刺激するかかわり、環境への配慮	
6	認知症の人の介護：連携と協働	
7	〃	
8	認知症を取り巻く状況：行政の方針と施策	
9	認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	
10	認知症の人の介護：アセスメントの視点	
11	〃	
12	〃	
13	家族への支援	
14	〃	
15	まとめ	
教科書	参考書・参考文献	評価基準
必要に応じてプリント配布	新・介護福祉士養成講座12「認知症の理解」中央法規出版 「タイプ別対応でよくわかる認知症ケア」ナツメ社	試験80%、レポート・受講態度20%

人体構造と疾病A

Body Structure and Disease A

《 2単位(講義) / 1年前期 / 介護福祉士必修 》

1年

担 当 者

小 車 淑 子

授 業 到 達 標

- ①「睡眠」、「食事」に関連したところとからだの生理的意味、しくみ、機能低下・障害が日常生活に及ぼす影響、変化の気づきと対応について理解できる。
- ②終末期のとらえ方を学び、看取りでの尊厳の保持の意味を学ぶ。終末期から死に至るまでの心身の機能変化を理解することができる。「死」に対するところの変化、医療職との連携について理解できる。

授 業 内 容

要介護者の生活支援に必要となる、人体のしくみや働きについて学ぶ科目です。
パワーポイントと教科書を併用して講義を進めていきます。
科学的な根拠づけをもって考えながらケアができるように、生活支援技術と結びつけて学んでいきましょう。

準 備 学 習 等 の 内 容

教科書を読んで予習をしておきましょう。テキストに記載された専門用語やパワーポイント等の資料で使用している用語は適切に活用できるように復習して下さい。人間の身体のしくみや働きについて学びますので、まずは自分の身体について興味を持ちましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	オリエンテーション：睡眠のしくみ	
2	睡眠に関連したところとからだのしくみ：心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響	
3	睡眠に関連したところとからだのしくみ：変化の気づきと対応	
4	復習（睡眠）	
5	食事に関連したところとからだのしくみ：食事のしくみ	
6	食事に関連したところとからだのしくみ：食事のしくみ	
7	食事に関連したところとからだのしくみ：食事のしくみ	
8	食事に関連したところとからだのしくみ：食べるしくみ	
9	食事に関連したところとからだのしくみ：心身の機能低下が食事に及ぼす影響	
10	食事に関連したところとからだのしくみ：変化の気づきと対応	
11	死にゆく人のところとからだのしくみ：復習（食事）	
12	死にゆく人のところとからだのしくみ：「死」を理解する。終末期から「死」までの変化と特徴	
13	死にゆく人のところとからだのしくみ：死に対するところの理解	
14	復習（終末期）	
15	まとめ	
教科書	参考書・参考文献	評価基準
①新・介護福祉士養成講座14ところとからだのしくみ ②介護福祉士養成講座編集委員会 ③中央法規出版		筆記試験80%、レポート・受講態度20%

人体構造と疾病B

Body Structure Disease B

《 2単位(講義) / 1年前期 / 介護福祉士必修 》

1年

担 当 者

田 中 優 子

授 業 到 達 目 標

人の体がどのように成り立っているか、生きているしくみの全体像を理解する。生命活動を支える様々な要素について学び、体の防御、修復や健康の意味について理解する。脳や神経のしくみとところとの関係について学び、介護ケアにどのように生かしていくのか考える。

授 業 内 容

からだの基本的な構造やその役割について学び、各器官系の生理機能や働きについて理解します。体の各部位や解剖については専門用語で確実に覚えるようにしましょう。バイタルサイン測定では実際に測定し急変時の対応が出来るようにしましょう。

準 備 学 習 等 の 内 容

教科書・副教材に目を通しておいください。授業で習ったことは出来るだけ復習しておいでください。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	オリエンテーション	
2	こころのしくみの理解：人間の欲求の基本的理解	
3	こころのしくみの理解：こころのしくみの基礎	
4	こころのしくみの理解：こころと脳・神経系のつながり	
5	確認テスト①	
6	からだの仕組みの理解：人体の構造と各部位の名称①	
7	からだの仕組みの理解：人体の構造と各部位の名称② テスト	
8	からだの仕組みの理解：人体部位の生理機能①	
9	からだの仕組みの理解：人体部位の生理機能②	
10	からだの仕組みの理解：人体部位の生理機能③	
11	からだの仕組みの理解：人体部位の生理機能④	
12	生命活動を調節する仕組み、修復・再生する仕組み	
13	確認テスト②	
14	バイタルサインの理解と測定	
15	まとめ	
教科書	参考書・参考文献	評価基準
新・介護福祉士養成講座 こころとからだのしくみ(4) 中央法規	新版 からだのしくみカラー辞典	受講態度・確認テスト・筆記試験など総合的に勘案する。 定期試験80% 受講態度20%

人体構造と疾病 C

Body Structure and Disease C

《 2 単位(講義) / 1 年後期 / 介護福祉士必修 》

1 年

担 当 者

中 野 幹 子

授 業 到 達 目 標

「移動」、「身じたく」、「入浴・清潔保持」、「排泄」に関連したところとからだの基礎知識、しくみ、機能低下・障害が及ぼす生活への影響、変化の気づきと医療職との連携について、理解し説明することができる。

授 業 内 容

人間の身体がどのような構造や機能をもっているのか、また、要介護者の生活支援の根拠となる人体のしくみや働きについて学ぶ科目です。
パワーポイントと教科書を併用して講義を進めていきます。
科学的な根拠を考えながらケアができるように、生活支援技術と結びつけて学んでいきましょう。

準 備 学 習 等 の 内 容

教科書を読んで予習をしておきましょう。テキストに記載された専門用語やパワーポイント等の資料で使用している用語は適切に活用できるように復習して下さい。人間の身体のしくみや働きについて学びますので、まずは自分の身体について興味をもちましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

授 業 テ ー マ		
1	オリエンテーション	
2	身じたくに関連したところとからだのしくみ：身じたく行為の生理的意味	
3	身じたくに関連したからだのしくみ：爪、毛髪の構造と機能、日常生活での観察のポイントと医療職との連携	
4	身じたくに関連したからだのしくみ：口腔の清潔のしくみ、機能低下と障害の影響、医療職との連携	
5	移動に関連したところとからだのしくみ：移動行為の生理的意味	
6	移動に関連したところとからだのしくみ：姿勢・体位の保持、歩行のしくみ、安全安楽な移動①	
7	移動に関連したところとからだのしくみ：姿勢・体位の保持、歩行のしくみ、安全安楽な移動②	
8	移動に関連したところとからだのしくみ：筋力・骨の強化のしくみ、移動に関する機能低下と障害と影響①、医療職との連携	
9	移動に関連したところとからだのしくみ：移動に関する機能低下、障害と影響②	
10	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ：清潔保持の生理的意味	
11	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ：清潔保持に関連したからだの器官、皮膚の汚れのしくみ、発汗のしくみ	
12	排泄に関連したところとからだのしくみ：排泄の生理的意味、便の生成と排便のしくみ	
13	排泄に関連したところとからだのしくみ：排便に関する機能低下・障害、日常生活での観察ポイントと医療職との連携	
14	排泄に関連したところとからだのしくみ：尿の生成と排尿のしくみ	
15	排泄に関連したところとからだのしくみ：排尿機能の低下と障害、日常生活での観察ポイントと医療職との連携	
教科書	参考書・参考文献	評価基準
新・介護福祉士養成講座14「ところとからだのしくみ」 中央法規	「介護福祉士国試ナビ 2018」 中央法規出版	筆記試験80%、受講態度・レポート等20%として総合評価する。

介護の基本 I

Basic Care Theory I

《 2 単位(講義) / 1 年前期 / 卒業必修・介護福祉士必修 》

1 年

担 当 者

片山 悟・川井小百合

授 業 到 達 標

- ①介護福祉士を取り巻く状況や背景を理解し説明できる。
- ②介護福祉士の担う社会的役割を理解し説明できる。
- ③高齢者の暮らしの実際を理解し特徴を説明できる。
- ④高齢者が生活してきた昭和の時代の生活や文化についてグループワークでまとめて発表する。
- ⑤介護サービスの概要を理解し説明できる。

授 業 内 容

前半は、介護が大きな社会問題となるに至った経緯や背景を学びます。次に、介護福祉士の社会的役割と機能を学び、自分達が目指す介護福祉士をイメージします。後半は、日本の高齢者の暮らしの特徴を学ぶとともに、昭和に時代や生活についてグループワークでまとめて発表し、昭和の時代の理解を深めます。介護サービスについて、その特徴を学びます。

準 備 学 習 等 の 内 容

新聞やニュースで高齢者、障害者、介護・・・といったキーワードを見かけたら一読して、介護を必要とする人や介護を取り巻く社会情勢の理解を深めてください。また、介護を必要とする人の生活を支えるという視点で、利用者の何を知り、大切にしていくことが大事なのかを考えてみましょう。授業では、理解度を確認するため問題を準備します。授業ではしっかりと理解して、復習に励んでください。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	オリエンテーション：介護の歴史		
2	介護福祉士を取り巻く状況：介護問題の背景		
3	介護福祉士の役割と機能を支える仕組み		
4	介護福祉士の役割と機能を支える仕組み		
5	介護福祉士の役割と機能を支える仕組み		
6	高齢化と介護問題		
7	中間のまとめ		
8	介護を必要とする人の理解（高齢者の暮らしの実際）		
9	高齢者が過ごしてきた昭和の時代の理解		
10	高齢者が過ごしてきた昭和の時代の理解		
11	介護サービスの概要		
12	介護サービスの概要		
13	介護サービスの概要		
14	介護サービスの概要		
15	まとめ		
教科書		参考書・参考文献	評価基準
「見て覚える！介護福祉士国試ナビ」中央法規出版			授業態度・課題提出20%、筆記試験80%（振り返りテスト30%、学期末試験50%）として評価する。

介護の基本Ⅱ

Basic Care Theory Ⅱ

《 2単位(講義) / 1年前期 / 卒業必修・介護福祉士必修 》

1年

担 当 者

一 山 幸 子

授 業 到 達 標

- ①「尊厳を支える介護」について、ADLとQOL、ノーマライゼーション、利用者主体の考え方を説明することができる。
- ②「自立に向けた介護」について、自立支援、ICF、リハビリテーションの考え方を説明することができる。
- ③「介護を必要とする人の理解」について、障害のある人の暮らしや、介護を必要とする人の生活環境を理解して、説明することができる。
- ④「介護従事者の倫理」について、職業倫理及び虐待の考え方を説明することができる。

授 業 内 容

- ①「尊厳を支える介護」「自立に向けた介護」について、テキストや配布資料、援助事例の視聴覚教材等を用いて「介護の基本」における自立支援の基本的知識を概説する。
- ②「介護を必要とする人の理解」について、障害のある人の暮らしや生活環境について、障害のある当事者及び障害者施設の現場職員より話を聞く。
- ③「介護従事者の倫理」では、職業倫理及び虐待について高齢者施設の現場職員から話を聞く。

準 備 学 習 等 の 内 容

- ・障害児者や高齢者に関わるボランティア活動に積極的に参加し、障害児者や高齢者、そして家族と直接関わることによって社会福祉の理論と実践とを突き合わせて当事者の生活実態やニーズ、自立支援のあり方を理解して下さい。
- ・テキストや参考文献、配布プリントをしっかりと読み、講義内容を予習・復習し、重要語句などをノートにまとめて下さい。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	<u>尊厳を支える介護</u> (自立・自律の考え方)	
2	<u>尊厳を支える介護</u> (自己選択・自己決定)	
3	<u>尊厳を支える介護</u> (ノーマライゼーションの理念)	
4	<u>尊厳を支える介護</u> (リハビリテーションの概念)	
5	<u>尊厳を支える介護</u> (ICFによる障害の捉え方)	
6	<u>自立に向けた介護</u> (介護における自立支援の考え方)	
7	<u>自立に向けた介護</u> (措置制度から契約制度へ)	
8	<u>自立に向けた介護</u> (障害者総合支援法①)	
9	<u>自立に向けた介護</u> (障害者総合支援法②)	
10	<u>介護を必要とする人の理解</u> (障害者のくらしの理解)	
11	<u>介護を必要とする人の理解</u> (障害者の生活ニーズ)	
12	<u>介護を必要とする人の理解</u> (障害福祉制度、特別支援教育制度)	
13	<u>介護従事者の倫理</u> (職業倫理・虐待)	
14	<u>介護従事者の倫理</u> (利用者の人権と介護)	
15	まとめ	
教科書	参考書・参考文献	評価基準
「介護福祉士国試ナビ」中央法規	最新・介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅰ」「介護の基本Ⅱ」「障害の理解」中央法規、「介護福祉用語辞典」「社会福祉用語辞典」ミネルヴァ	受講態度・復習テスト…30点 筆記試験…70点

コミュニケーション技術A

Communications Skill A

《 1 単位(演習) / 1 年前期 / 介護福祉士必修 》

1 年

担 当 者

中 野 幹 子

授 業 到 達 標

- ①相手のことを知り、気持ちを察することができる (受容・共感)
- ②相手が話しやすい態度、質問ができる
- ③相手の質問を広げる会話ができる
- ④自分の傾向を知り、コミュニケーションの課題を明らかにすることができる
- ⑤介護におけるコミュニケーションの基本や介護場面における利用者や家族とのコミュニケーション方法を理解することができる

授 業 内 容

- ・ コミュニケーションの基本を学び、実際に行動に移せるようにクラスメイトと会話の演習をします。また、介護福祉施設でボランティアをし、授業でその体験を振り返り共有することで利用者とのコミュニケーションの方法を学んでいきます。
- ・ 障害のある利用者との関わり方について、当事者の方の講義・演習、コミュニケーションを交え学びます。
- ・ 相手に関心を寄せ、会話し、相手の思いを察することができるかを中心に実技試験で確認していきます。

準 備 学 習 等 の 内 容

- ・ 介護福祉施設でのボランティアを各自で実践することが必須となります。
- ・ 自分の態度が常に相手に影響を与えていることを意識して、クラス全員で学びあえる雰囲気をつくりましょう。
- ・ 敬語が自然と使えるようになるために普段から相手の年齢や立場、状況に合わせた話し方を心がけましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	オリエンテーション (自己紹介)						
2	介護におけるコミュニケーションの基本 (言語・非言語コミュニケーション SOLER)						
3	会話の演習 (傾聴・受容・共感・ラポール)						
4	会話の演習 (利用者の納得と同意を得る技法、質問の技法)						
5	他者から見た自分と自己覚知 (自己覚知・ジョハリの窓・エゴグラム)						
6	介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション (敬語の使い方、電話のかけ方)						
7	視覚障害者とのコミュニケーション (視覚障害のある外部講師) 視覚障害者疑似体験、演習等						
8	介護福祉施設でのコミュニケーション実践						
9	利用者とのコミュニケーション振り返り						
10	利用者とのコミュニケーション① 障害についての事前学習 講義 グループワーク						
11	利用者とのコミュニケーション② 利用者からのお話し、コミュニケーションの実施						
12	利用者とのコミュニケーション③ コミュニケーションの振り返り、グループでのまとめ						
13	実技のまとめ						
14	実技のまとめ						
15	実技のまとめ						
	<table border="1"><thead><tr><th>教科書</th><th>参考書・参考文献</th><th>評価基準</th></tr></thead><tbody><tr><td>見て覚える！介護福祉士国試ナビ 中央法規</td><td></td><td>授業態度・振り返りシートの内容・課題提出20%、実技試験40%、筆記試験40%とする。</td></tr></tbody></table>	教科書	参考書・参考文献	評価基準	見て覚える！介護福祉士国試ナビ 中央法規		授業態度・振り返りシートの内容・課題提出20%、実技試験40%、筆記試験40%とする。
教科書	参考書・参考文献	評価基準					
見て覚える！介護福祉士国試ナビ 中央法規		授業態度・振り返りシートの内容・課題提出20%、実技試験40%、筆記試験40%とする。					

コミュニケーション技術B

Communications Skill B

《 1 単位(演習) / 1 年後期 / 介護福祉士必修 》

1 年

担 当 者

中 野 幹 子

授 業 到 達 標

- ①介護チームにおける記録方法と情報の共有化、個人情報保護について学び理解する。
- ②職員とのコミュニケーションの留意点を理解し、状況に応じた対応ができる。
- ③コミュニケーション障害のある利用者を理解する視点を持ち、相手の立場に立ったコミュニケーションをとることができる。
- ④相手の気持ちを察して、コミュニケーションを取るができる。
- ⑤仲間と協力して授業・演習に取り組むことができる。

授 業 内 容

- ・記録の意義や留意点についての講義と、そのままの場面を表記する演習を行います。
- ・実習先の職員とのコミュニケーションやチームのコミュニケーション方法について演習をします。
- ・事前にグループで計画を立て、お招きした障害をもつ方とコミュニケーションをとります。
- ・相手に関心を寄せ、会話し、相手の思いを察することができるかを中心に実技試験で確認をしていきます。

準 備 学 習 等 の 内 容

- ・自分の態度が常に相手に影響を与えていることを意識して、クラス全員で学びあえる雰囲気をつくりましょう。
- ・敬語が自然と使えるようになるために普段から相手の年齢や立場、状況に合わせた話し方を心がけましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	オリエンテーション 介護におけるチームのコミュニケーション (記録)
2	記録の演習 (場面のそのままの表記)
3	介護におけるチームのコミュニケーション/実習先の職員とのコミュニケーション (オリエンテーションの受け方・トラブル時の対応)
4	聴覚障害のある人とのコミュニケーション① グループワーク
5	聴覚障害のある人とのコミュニケーション② 講義・コミュニケーションの実施
6	聴覚障害のある人とのコミュニケーション③ コミュニケーションの振り返り、グループでのまとめ
7	点字の体験
8	実習でのコミュニケーションの振り返り
9	利用者さんとのコミュニケーション① グループワーク
10	利用者さんとのコミュニケーション② コミュニケーションの実施
11	利用者さんとのコミュニケーション③ コミュニケーションの振り返り、グループでのまとめ
12	会話の練習
13	実技のまとめ
14	実技のまとめ
15	実技のまとめ

教科書	参考書・参考文献	評価基準
見て覚える！介護福祉士国試ナビ 中央法規		授業態度・振り返りシートの内容・課題提出20%、実技試験40%、筆記試験40%とする。

生活支援技術（移動A）

Life Support Skills (Transfer A)

《 1 単位(演習) / 1 年前期 / 介護福祉士必修 》

1 年

担 当 者

折居明日香・田邊 伸一

授 業 到 達 標

- ・ 利用者の潜在能力を活用した基本的な移乗・移動(杖歩行・歩行器歩行・車椅子)介助ができる
- ・ 自立に向けた移乗・移動に関連した福祉用具について理解・活用できる
- ・ 腰痛予防、ボディメカニクスなど介護を行う上での安全と健康管理について理解・実践できる
- ・ 移乗・移動に関する介護事故とその対応・安全確保について理解できる

授 業 内 容

移動の支援技術は、あらゆる介護場面で必要とされている技術です。この科目では、対象者がどのような状態であっても、その人の自立支援を尊重し、潜在能力を引き出せるように、知識・技術を養います。

授業では、利用者役・介助者役になつてのグループ演習を中心に行います。
(個々の能力や習得状況に応じ、時間外に補講や技術演習を実施することもあります。)

準 備 学 習 等 の 内 容

介護福祉士に必要な介護技術を習得するためには、反復練習が大切です。
授業では、技術向上を目指し、1人ひとりが意欲的に取り組んでください。
介護福祉士となる自覚と心構えを持って、真摯な態度で授業に臨みましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ		
1	自立に向けた移動の介護（移動の意義と目的）	
2	自立に向けた移動の介護（ボディメカニクスについて）	
3	自立に向けた移動の介護（歩行介助）	
4	自立に向けた移動の介護（歩行介助）	
5	自立に向けた移動の介護（車椅子の知識とメンテナンス）	
6	自立に向けた移動の介護（車椅子の駆動介助）	
7	自立に向けた移動の介護（ベッド上の移動）	
8	自立に向けた移動の介護（ベッド上の移動）	
9	自立に向けた移動の介護（体位交換・起き上がりの介助）	
10	自立に向けた移動の介護（体位交換・起き上がりの介助）	
11	自立に向けた移動の介護（移乗介助）	
12	自立に向けた移動の介護（移乗介助）	
13	自立に向けた移動の介護（振り返り）	
14	実技のまとめ	
15	実技のまとめ	
教科書	参考書・参考文献	評価基準
必要に応じてプリント配布	「目で見てわかる介護術」成美堂出版 「写真でわかる移乗・移動ケア」ナツメ社	受講態度20%、試験結果80%を総合的に評価する

生活支援技術（移動B）

Life Support Skills (Transfer B)

《 1 単位(演習) / 1 年後期 / 介護福祉士必修 》

1 年

担 当 者

田邊 伸一・山本 恭大

授 業 到 達 標

- ・ 利用者の状況に応じ、潜在能力を活用した基本的な移乗・移動の介助ができる
- ・ 自立に向けた移乗・移動に関連した福祉用具について理解・活用できる
- ・ 休息・睡眠の原理について理解し、安眠に適する環境整備や寝具の選択などの支援ができる

授 業 内 容

この科目では、「生活支援技術（移動A）」での基本的な移動の支援を踏まえた応用編として、利用者の状況に応じた移動の支援方法を学びます。対象者がどのような状態であっても、その人の自立支援を尊重し、潜在能力を引き出せるように知識・技術を養います。また、安眠の介護では、睡眠の原理や不眠の要素を学び、適切な安眠の支援を学びます。
(個々の能力や習得状況に応じ、時間外に補講や技術演習を実施することもあります。)

準 備 学 習 等 の 内 容

介護福祉士に必要な介護技術を習得するためには、反復練習が大切です。
授業では、技術向上を目指し、1人ひとりが意欲を持って演習に取り組んでください。
介護福祉士となる自覚と心構えを持ち、真摯な態度で授業に臨みましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ		
1	自立に向けた移動の介護（基本的な移動・移乗の介護の復習）	
2	自立に向けた移動の介護（基本的な移動・移乗の介護の復習）	
3	自立に向けた移動の介護（基本的な移動・移乗の介護の復習）	
4	自立に向けた移動の介護（基本的な移動・移乗の介護の復習）	
5	自立に向けた移動の介護（利用者の状況に応じた移動介助）	
6	自立に向けた移動の介護（利用者の状況に応じた移動介助）	
7	自立に向けた移動の介護（利用者の状況に応じた移動介助）	
8	自立に向けた移動の介護（睡眠のメカニズムと不眠の要素と対応）	
9	自立に向けた移動の介護（ポジショニングの意義と演習）	
10	自立に向けた移動の介護（他職種との連携）	
11	自立に向けた移動の介護（他職種との連携）	
12	自立に向けた移動の介護（ロールプレイ）	
13	実技のまとめ	
14	実技のまとめ	
15	実技のまとめ	
教科書	参考書・参考文献	評価基準
なし	「目で見てわかる介護術」 成美堂出版	受講態度20%、試験結果80%を総合的に評価する。

生活支援技術（環境）

Life Support Skills (Environment)

《 1 単位(演習) / 1 年前期 / 介護福祉士必修 》

1 年

担 当 者

山本 恭大・田邊 伸一

授 業 到 達 目 標

- ①居住環境の整備の意義と目的を理解することができる
- ②安心して快適な生活の場づくりに必要な住まいの工夫や留意点を理解することができる
- ③基本的なベッドメイキング・リネン交換の技術を習得することができる

授 業 内 容

この科目では、介護が必要な人に応じた環境整備の方法や、福祉用具の活用などの知識、技術を養います。ベッドメイキング、リネン交換の技術を習得できるよう小グループでの演習を中心に行います。

(個々の能力や習得状況に応じ、時間外に補講や技術演習を実施することもあります)

準 備 学 習 等 の 内 容

専門職となるための技術を習得するには、自己研鑽を積むことが必要です。介護福祉士となる自覚と心構えを持って、真摯に演習に臨んでください。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ		
1	オリエンテーション／自立に向けた居住環境の整備（意義・目的）	
2	自立に向けた居住環境の整備（住環境について・リネン類のたたみ方）	
3	自立に向けた居住環境の整備（住環境について・実習服のゼッケン付け）	
4	自立に向けた居住環境の整備（ベッドメイキングの基礎）	
5	自立に向けた居住環境の整備（ベッドメイキングの復習）	
6	自立に向けた居住環境の整備（ベッドメイキングの復習と応用）	
7	自立に向けた居住環境の整備（ベッドメイキングの振り返り・応用）	
8	自立に向けた居住環境の整備（施設の居住環境について）	
9	自立に向けた居住環境の整備（シーツ交換の基礎）	
10	自立に向けた居住環境の整備（シーツ交換の基礎）	
11	自立に向けた居住環境の整備（シーツ交換の応用）	
12	自立に向けた居住環境の整備（シーツ交換の応用）	
13	自立に向けた居住環境の整備（シーツ交換の応用）	
14	実技のまとめ	
15	実技のまとめ	
教科書	参考書・参考文献	評価基準
必要に応じてプリント配布	「人にやさしい介護技術」 中央法規出版 看護技術がみえる vol 1 基礎看護技術 メディックメディア	受講態度20%、試験結果80%を総合的に評価する

生活支援技術（食事）

Life Support Skills (Meal)

《 1 単位(演習) / 1 年後期 / 介護福祉士必修 》

1 年

担 当 者

山本 恭大・折居明日香

授 業 到 達 標

- ①食事の意義・目的を理解し、自立支援を目標とした支援方法を実践することができる。
- ②嚥下の原理や対象者に応じた食事形態の種類、調理法を理解することができる。
- ③食事に適する環境整備や福祉用具の選択など対象者に応じた支援を考え、実践することができる。

授 業 内 容

食事の基本的知識、介護が必要な人に応じた食事介助や口腔ケアの支援方法を学びます。授業では（個々の能力や習得状況に応じ、時間外に補講や技術演習を実施することもあります）、利用者役・介助者役になってグループ演習を中心にを行います。

準備学習等の内 容

介護福祉士に必要な介護技術を習得するためには、反復練習が大切です。授業では、技術向上を目指し、1人ひとりが意欲を持って演習に取り組んでください。介護福祉士となる自覚と心構えを持って、真摯な態度で授業に臨みましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ		
1	自立に向けた食事の介護（オリエンテーション・食事介助に必要な基礎知識）	
2	自立に向けた食事の介護（食事介助に必要な基礎知識）	
3	自立に向けた食事の介護（食事介助に必要な基礎知識）	
4	自立に向けた食事の介護（食事介助に必要な基礎知識）	
5	自立に向けた食事の介護（食事介助の方法）	
6	自立に向けた食事の介護（食事介助の方法）	
7	自立に向けた食事の介護（食事介助の方法）	
8	自立に向けた食事の介護（食事介助の方法）	
9	自立に向けた食事の介護（口腔ケアについて）	
10	自立に向けた食事の介護（口腔ケアについて）	
11	自立に向けた食事の介護（介護食の調理）	
12	自立に向けた食事の介護（介護食の調理）	
13	自立に向けた食事の介護（振り返り）	
14	実技・まとめ	
15	実技・まとめ	
教科書	参考書・参考文献	評価基準
必要に応じてプリントを配布	「介護のための摂食・嚥下障害の理解とケア」 ナツメ社 「目で見てわかる介護術」 成美堂出版	受講態度20%、試験結果80%を総合的に評価する

生活支援技術（アクティビティ）

Life Support Skills (activity)

《 1 単位(演習) / 1 年後期 / 介護福祉士必修 》

1 年

担 当 者

田 邊 伸 一

授 業 到 達 標

- ①アクティビティ活動やレクリエーションの意義や目的を理解することができる
- ②対象者や目標にあわせたアクティビティ活動・レクリエーション演習を行うことができる
- ③実践で行うことができるアクティビティ活動・レクリエーションを習得することができる

授 業 内 容

アクティビティ活動やレクリエーションを行う目的や効果などを根拠に基づき説明した上で、活動を行えるよう学んでいきます。また、アクティビティ活動やレクリエーションの多様さを理解し、集団や個人のニーズに応じた内容の選定や提供の仕方を学習し、実践で活用できるアクティビティ活動・レクリエーションの習得を目標に授業を行っていきます。

準 備 学 習 等 の 内 容

日本の童謡や歌謡曲を聞いてみるなど、当時の流行したことを聞いたり調べてみたりしましょう。アクティビティ活動やレクリエーションのアレンジを考察してみるなど、自分が行う際のイメージをしながら授業に参加しましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	オリエンテーション・信頼関係づくりの方法	
2	自主的・主体的に楽しむ力を育むアクティビティ	
3	自主的・主体的に楽しむ力を育むアクティビティ	
4	アクティビティ活動の演習	
5	アクティビティ活動の演習	
6	アクティビティ活動の演習	
7	自主的・主体的に楽しむ力を育むレクリエーション	
8	自主的・主体的に楽しむ力を育むレクリエーション	
9	レクリエーション活動の演習	
10	レクリエーション活動の演習	
11	レクリエーション活動の演習	
12	利用者の意欲を引き出すアクティビティの展開方法 1	
13	利用者の意欲を引き出すアクティビティの展開方法 2	
14	利用者の意欲を引き出すアクティビティの展開方法 3	
15	まとめ	
教科書	参考書・参考文献	評価基準
必要に応じてプリント配布	みんなで楽しめる高齢者の年中行事&レクリエーション ナツメ社	受講態度30% 課題30% レポート40%

介護過程 I

Care Process I

《 2 単位(演習) / 1 年後期 / 介護福祉士必修 》

1 年

担 当 者

川 井 小百合

授 業 到 達 標

- ①介護過程の意義・目的・展開方法を理解することができる。
- ②情報収集・アセスメントの考え方、ICF との関連について理解することができる。
- ③事例をとおして情報収集、アセスメントを記述することができる。
- ④プロセスレコードにより、利用者への理解を深め、自分の考え方を見つめ直すことができる。

授 業 内 容

介護過程の基礎知識を学び、自分で介護過程が展開できるようになるための科目です。
様々な事例をもとに、介護をする上で重要な考え方を具体的に学んでいきます。

準 備 学 習 等 の 内 容

介護過程を考え記述できるようになるためには、これまで学んだすべての知識を総動員して考えることが必要になります。
また、文章力が不可欠ですので、日頃から漢字の練習や文章を書く鍛錬をしておきましょう。

授 業 計 画 等

週	コマ	授 業 テ ー マ	週	コマ	授 業 テ ー マ
1	1	オリエンテーション	8	16	介護過程の実践的展開 情報収集 その1
	2	介護過程の意義 (実習と介護過程)		9	17
2	3	介護過程の概要	10		18
	4	生活問題とニーズの捉え方 1		19	19
3	5	生活問題とニーズの捉え方 1	11		20
	6	情報収集の方法		12	21
4	7	情報収集の方法	13		22
	8	具体的な事例からの情報収集 場面1・2		14	23
5	9	介護過程の実践的展開 課題の抽出	15		24
	10	介護過程の実践的展開 課題の抽出/不足した情報		14	25
6	11	カルテの見方	15		26
	12	全体会の資料の読み取り方		14	27
7	13	全体会	15		28
	14	全体会		15	29
8	15	介護過程の実践的展開 情報収集 1ー② 注意点 利用者、職員、カルテ	30		まとめ
		教科書			評価基準
		必要に応じてプリント配布	参考書・参考文献 「介護過程」 中央法規出版		筆記試験80% 提出物や授業態度20%として評価する。

実習指導 A

Practice Guidance A

《 1 単位(演習) / 1 年前期 / 介護福祉士必修 》

1 年

担 当 者

田邊 伸一・川井小百合

授 業 到 達 標

- ①介護実習に必要な「介護実習計画書」「お礼状」等の作成ができる。
- ②総合演習 I A の施設見学事前・事後の準備をとおして地域の福祉施設の機能や役割、職員の仕事内容を理解し、「施設概要」の記入方法が分かる。
- ③介護職として相応しい身だしなみを理解し、施設見学で身なりを整え学生らしい立ち振る舞いができる。
- ④夏休みのボランティア体験の心構えができ、各自で手続きができる。

授 業 内 容

- ①後期から始まる介護実習に必要な姿勢・知識・技術を施設見学の事前準備や事後のまとめで学びます。
- ②「施設概要」の書き方をグループワークし利用者にとっての環境を見る視点を学びます。
- ③施設見学の準備と並行して「介護福祉士の仕事」を視聴し、様々な介護の現場について理解します。
- ④介護の現場を知り、利用者に関わる練習のために夏休みボランティアの課題を設け、実習指導 B での実習日誌の書き方を学ぶための準備をしていきます。

準 備 学 習 等 の 内 容

- ・介護実習ではまず、挨拶、言葉遣い、身だしなみ、時間や期限を守るといった基本的なマナーが大切です。日常から気をつけて身につけていきましょう。
- ・実習では様々な書類を作成していきます。読み手に分かりやすい記述ができるように記述が苦手な人は日記をつけたり、漢字の練習を積み重ね努力してください。
- ・後期から始まる介護実習を万全の準備で迎えられるよう授業に集中し、1人ひとりがしっかりと実習までの流れや書類を理解しましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	オリエンテーション／実習指導・介護実習の意義と目的		
2	介護実習について（実習の種類・実習までの流れ・記録物）		
3	介護実習について（実習生の心構え・留意事項）		
4	施設見学の目的（グループわけ）／夏休みボランティアについて		
5	施設見学準備①「実習計画書」について：記述方法の説明・下書き		
6	施設見学準備②「施設概要」について：記述方法の説明・下書き		
7	施設見学準備③「総括（カンファレンス資料）」について：記述方法の説明・下書き		
8	施設見学準備④施設見学心構え・服装チェック		
9	施設見学事後指導①「お礼状」作成		
10	施設見学事後指導②「施設概要」作成 グループワーク		
11	施設見学事後指導②「施設概要」発表		
12	施設見学事後指導③「総括（カンファレンス資料）」作成 グループワーク		
13	施設見学事後指導③「総括（カンファレンス資料）」発表		
14	実習日誌について（記述方法の説明）／夏休みボランティアについて		
15	まとめ		
教科書		参考書・参考文献	評価基準
本学科作成の「介護実習要綱」			受講態度(30%)、提出課題(30%)、筆記試験(40%)を総合的に評価する。

実習指導B

Practice Guidance B

《 1 単位(演習) / 1 年後期 / 介護福祉士必修 》

担 当 者

折居明日香・中野幹子・片山悟・一山幸子・川井小百合・田邊伸一・山本恭大

授 業 到 達 標

- ①介護実習に必要な手続きの手順を理解し、実習前・実習後の書類作成ができる。
- ②実習施設への連絡調整、事前オリエンテーションの準備及び実施ができる。
- ③書類提出の期限の厳守、必要事項の報告・連絡・相談ができる。
- ④「実習日誌」が書けるようになる。
- ⑤介護福祉士を目指す学生として自己評価をし、自己の課題や今後取り組むべき事を明らかにすることができる。

授 業 内 容

- ①本科目では前期で学んだ介護実習に必要な姿勢・知識・技術を活かし、実習(I)-1、実習(I)-2の準備を行います。
- ②実習(I)-1の課題である「実習日誌」は、夏休みボランティアや施設レクリエーション見学で書いた「実習日誌」を基に学びます。
- ③実習で必要となる書類作成の指導は、教員が数名の学生を受け持ち指導するチームティーチングを取り入れています。

準 備 学 習 等 の 内 容

- ・実習に関連する書類作成の学習のための自宅課題は、他者に読みやすい字で丁寧に記入し、提出期限を厳守してください。
- ・文章を書くのが苦手な人は、漢字の練習や書き写しなどに取り組み、文章力向上のために努力してください。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ		
1	授業内容説明、「実習日誌」の書き方説明・指導（個別指導）	
2	【実習(I)-1】準備① 実習の目的・流れの説明 「個人表」の説明・下書き 「腸内細菌検査」・「健康診断書」の手続き	
3	【実習(I)-1】準備② 「誓約書」「実習計画書」の説明・流れの説明 「実習計画書」目標指導	
4	【実習(I)-1】準備③ 「実習日誌」の目標の視点 個別指導	
5	施設レクリエーション見学	
6	【実習(I)-1】準備④ 事前オリエンテーションの確認（必要書類 事前オリエンテーションの受け方）	
7	「実習日誌（施設レク見学編）」 個別指導	
8	カンファレンスについて 記録物について（出席表・欠席届）	
9	【実習(I)-1】実習直前指導 実習にあたっての留意点・巡回担当ごとに面談 記録物の確認	
10	【実習(I)-1】事後指導① 記録物の確認（青ファイル整理）・お礼状送付準備	
11	【実習(I)-1】事後指導② 「総括（カンファレンス資料）」 個別指導	
12	【実習(I)-1】事後指導③ 「実習日誌」 個別指導	
13	【実習(I)-2】準備① 実習の目的・流れの説明 「腸内細菌検査」・「健康診断書」の手続き、「誓約書」・「実習計画書」下書き	
14	【実習(I)-2】準備② 「プロセスレコード」全体講義 個別指導	
15	「プロセスレコード」個別指導	
教科書	参考書・参考文献	評価基準
本学科作成の「介護実習要綱」必要に応じてプリントを配布	「介護実習で困らないためのQ&A」 中央法規出版	受講態度・提出物（30%） 実習(I)-1終了後の「実習日誌」（40%） 筆記試験（30%）を総合的に評価する。

介護実習

Practice in Care

《 10単位(実習) / 1年通年 / 介護福祉士必修 》

1年

担 当 者

中野幹子・片山悟・一山幸子・川井小百合・折居明日香・田邊伸一・山本恭大

授 業 到 達 標 目

実習（Ⅰ）- 1：①自分の立場を理解し社会性を身につけることができる。②利用者や職員とコミュニケーションをとることができる。③施設の概要が理解できる。④利用者像（Ⅰ）- 1の情報を収集することができる。
実習（Ⅰ）- 2：①さまざまな障害を持つ利用者とのコミュニケーションをとることができる。②利用者理解を深め、接し方を学び自己洞察ができる。③基本的な生活支援技術を実施することができる。④利用者像（Ⅰ）- 2の情報を収集することができる。

授 業 内 容

実習（Ⅰ）では、多様な介護現場を体験し施設の概要を把握し記録する。利用者（家族）とのコミュニケーションを実践し、再構成を記述し利用者理解を深める。基本的な生活支援技術の確認を行う。毎日実習目標を立て、実践した内容・評価・考察等を実習日誌に記録し、実習指導者に提出する。カンファレンスでは、実習段階毎の目標について評価・考察し、自己を振り返り課題を明確にする。

準 備 学 習 等 の 内 容

介護実習は、社会で貢献できる人材となるための自己研鑽の場です。目標を明確にして、謙虚な姿勢で実習に臨みましょう。
実習では、日誌等を記述するための文章力が不可欠になります。漢字の習得や文章を書くことができるように日頃から鍛錬をしておきましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1. 実習（Ⅰ）- 1（1年次 11月 10日間）

（目的）

利用者や職員とかかわる中で実習生としての立場を自覚し、社会性を身につける。
高齢者や障害児・者に対する介護の場を体験し、施設の特徴や介護職員の職務等の概要を学ぶ。
利用者とかかわり、介護が必要な利用者の日常生活や生活環境を理解する。
コミュニケーションを通して、基本的な情報収集を行うことができる。

2. 実習（Ⅰ）- 2（1年次 2月～3月 14日間）

（目的）

利用者との人間的な触れ合いを通して社会的背景等の情報収集を行い、利用者理解を深める。
福祉職としての受容的なかわり方を学び、自己洞察の訓練を行う。
基本的な生活支援技術を学ぶ。
介護職としての倫理観を養う。

教科書	参考書・参考文献	評価基準
なし	MINERVA 福祉資格テキスト 「介護福祉士（介護編）」 ミ ネルヴァ書房	実習段階ごとの介護実習評価表により評価する。実習指導者の評価50%、巡回担当教員の評価50%とし、介護実習会議を経て総合的に評価する。

芸術療法

Art Therapy

《 1 単位(演習) / 1 年後期 》

担 当 者

米倉 裕子・眞弓真由美・徳永 玲子

授 業 到 達 標

(米倉)
医療・福祉・教育の現場で効果的なツールとして重要視されている音楽療法の概要と現状について学習し、それに使用されている音楽の特製を、将来の自分のプロフェッショナルにどのように利用していただけるかを考察する機会を提供していく。
(眞弓)
絵画・造形療法の技法を学んで表現する事の楽しさやカタルシス(心の浄化)を体感し、様々な現場で活かす力を身に付ける。
(徳永)
朗読会を開きましょう。

授 業 内 容

(米倉)
テキストやハンドアウトなどを使用した理論の提供と、それに沿ったワークショップの実施を平行して実施していく。また、できるだけ多くの楽曲や楽器に触れる機会を提供していく。
(眞弓)
幼児から高齢者まで幅広く使える簡単な技法を用いて実際に作品制作を行い、楽しさやカタルシスを体感する。また、作品や制作そのものがコミュニケーションの道具となることも体感し、現場でどのように活かすのかを考える。
(徳永)
発声・基礎訓練。

準 備 学 習 等 の 内 容

(米倉)
学生は、理論及び自分自身の声、身体、及び様々な楽器を使ったワークショップを通して、人間が人間らしく在る為の我々の生活の中における音楽の存在とその効果について認識し、そこから対象者のニーズに合った音楽活動へ繋げていくアイデアを考察していく。
(眞弓)
絵画・造形療法では、作品は制作者の心の表現の一つであって「上手、下手」と評価されるものではない。受講生は、描く事やつくる事に対する苦手意識を捨てて楽しむことが必要。
(徳永)
映画・ドラマ・舞台観劇、読書。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ		担 当 者				
1	イントロダクション／「療法的音楽活動」について	米 倉				
2	我々をとりまく音の特製について／ミュージックベースワークショップ 1	〃				
3	社会における音楽の機能について／ミュージックベースワークショップ 2	〃				
4	高齢者を対象とした音楽活動について／ミュージックベースワークショップ 3	〃				
5	児童を対象とした音楽活動について／ミュージックベースワークショップ 4	〃				
6	音楽療法の現場について／ミュージックベースワークショップ 5	〃				
7	フィードバック	〃				
8	絵画・造形療法概論	眞 弓				
9	絵画・造形療法によるカタルシス体験	〃				
10	様々な制作技法 1	〃				
11	様々な制作技法 2	〃				
12	様々な制作技法 3	〃				
13	発声・基礎訓練	徳 永				
14	文章に感情をのせる練習	〃				
15	朗読会	〃				
教 科 書		参 考 書・参 考 文 献		評 価		
(米倉)「いのちの賛歌 日本のうた 増訂版」(2011) 野ばら社 「臨床が変わる！イラストでわかる目からウロコの音楽活動」(2014) 三輪書店		(米倉) クラス内で提示 (眞弓)「介護・福祉・医療にかかわる人のために アートセラピー入門～認知症にも効果が認められた芸術療法～」(2007) ひかりのくに株式会社 (徳永) はなしことば練習帳 演技入門ハンドブック		担 当 者		割 合
				評 価 基 準		
				米倉	期末試験：25%、クラス内発表：20% リアクションペーパーを含むクラス内提出物：30% 受講態度：25%	5 割
				眞弓	受講態度(積極性、意欲など)：20% 授業後小レポート：40% 作品課題：40%	3 割
		徳永	実技により評価	2 割		

癒しのケア

Care Healing

《 1 単位(演習) / 1 年前期 》

1 年

担 当 者

外園 裕美・田中ふみ子

授 業 到 達 標

(外園)
高齢者や障害者の人へメイクとその関わりを使ってケアをしていく技術を学びます。メイクをする事で、あたたかな気持ち生まれ、高齢者や障害者の方々に笑顔にする力を身につけます。
(田中)
福祉の現状を踏まえ、今後必要な生活支援技術の一つとして、また医療・介護の現場でのコミュニケーション法の一つとして本ケアを習得し、役立たせることが出来るよう、その汎用性まで包括して学習する。

授 業 内 容

(外園)
セラピーメイクの技法と関わりのための心理学、コミュニケーションをとる方法、信頼関係を作る方法、傾聴する技法など。
(田中)
セラピューティック・ケアの沿革と基本理念に習熟し、基本技術を習得し、接遇傾聴等も相応の知識があり、対応が出来る。
また様々な福祉分野や現場において本ケアを生活支援のツールとして活かす基礎を構築する。

準 備 学 習 等 の 内 容

(外園)
高齢者とのコミュニケーションのとり方の注意点を意識的に考えておくこと、自分自身が気持ちいいという体験をすると気持ちいいと同時にきっと利用者さんや家族にも体験してほしいと思われることでしょう。
(田中)
高齢者・認知症の方とのコミュニケーションのとり方、接し方等について日頃から意識的に考えておくこと。また心豊かな生活を心がけて日々過ごすこと。
自分で出来る心のケアはどんなものがあるか考えてもらう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ		担 当 者			
1	セラピーメイク概論	外 園			
2	福祉セラピーメイクの役割と効果、活動	〃			
3	ラポールの構築	〃			
4	フェイスマッサージ	〃			
5	スキンケア技法	〃			
6	ナチュラルメイク技法①	〃			
7	ナチュラルメイク技法②	〃			
8	介護メイクとしての注意と実際	〃			
9	オリエンテーション 自己紹介、教育用 DVD(基本編)視聴・プロモーションビデオ視聴 (実技)ネック&ショルダーケア	田 中			
10	(理論)セラピューティック・ケア概論(スライドショー)視聴 (実技)ハンド&アームケア	〃			
11	(理論)施術上の留意点・禁忌事項等 (実技)ネック&ショルダーケア ハンド&アームケア	〃			
12	(理論) セラピューティック・ケアの科学的根拠、傾聴	〃			
13	(理論) 相乗効果・呼吸法・音楽等 (実技) ネック&ショルダーケア レッグケア	〃			
14	筆記試験 (実技) ハンド&アームケア、レッグケア	〃			
15	三手技の確認 まとめ	〃			
教科書		参考書・参考文献		評 価	
(田中) セラピューティック・ケア (改訂版) (外園) なし	(田中) セラピューティック・ケア概論 スライドショーのコピー (外園) オリジナルテキストのコピー配布	担当者	評 価 基 準		割合
		外園	レポート (50%) 筆記試験 (30%)	受講態度 (20%)	5 割
		田中	実技の習熟度及び施術の感想文 (50%) 筆記試験 (30%) 受講態度 (20%)		5 割

福祉情報技術演習

Practice in Welfare and Information Technology

《 1 単位(演習) / 1 年前期 》

1 年

担 当 者

関 洋 輔

授 業 到 達 目 標

コンピュータに関する知識と技能は情報化社会において必須である。本講座ではコンピュータリテラシーの獲得と情報モラルの理解を目標とする。

授 業 内 容

Microsoft Office に含まれる Word、Excel、PowerPoint の演習が中心である。また、インターネットの利用から情報モラルや情報セキュリティなどについても併せて解説を行う。

準備学習等の内 容

近年の情報関連技術などに興味を持ち、様々な情報を収集するよう心掛けておく。

授業計画等

授 業 テ ー マ

1	ガイダンス
2	Word 1
3	Word 2
4	Word 3
5	Word 4
6	Excel 1
7	Excel 2
8	Excel 3
9	Excel 4
10	PowerPoint 1
11	PowerPoint 2
12	PowerPoint 3
13	PowerPoint 4
14	情報モラル
15	まとめ

教科書

*留学生は必須
『留学生のためのかんたん
Word 入門』技術評論社
『留学生のためのかんたん
Excel 入門』技術評論社

参考書・参考文献

『30時間 で マス タ ー Office
2010』実教出版

評価基準

課題提出 (50%) および実技試験 (50%)

介護の基礎 I

Fundamental Care Theory I

《 1 単位(演習) / 1 年前期 》

1 年

担 当 者

永吉美知子・中野幹子・片山悟・一山幸子・川井小百合・折居明日香・田邊伸一

授 業 到 達 標

介護の日本語の単語を読み書きができるようになる。実習（I）－1に向けて挨拶や簡単なコミュニケーションが取れるよう、挨拶の方法や日誌の書き方を理解できるようになる。

授 業 内 容

基本的な日本語（文法・漢字）～介護・福祉に関連する専門用語が理解でき、読み書きができるように、課題を用意して繰り返しの学習を行う。

準備学習等の内 容

学生には毎回予習と復習課題を設定し、授業の中で発表しシェアする方法を取る。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

授 業 テ ー マ		
1	日本語の基本①	
2	日本語の基本②	
3	日本語の基本③	
4	介護・福祉でつかう単語①	
5	介護・福祉でつかう単語②	
6	介護・福祉でつかう単語③	
7	介護場面でのコミュニケーション①	
8	介護場面でのコミュニケーション②	
9	介護場面でのコミュニケーション③	
10	介護の場面を文章で表現する①	
11	介護の場面を文章で表現する②	
12	介護の場面を文章で表現する③	
13	介護の場面を文章で表現する④	
14	介護の場面を文章で表現する⑤	
15	まとめ	
教科書	参考書・参考文献	評価基準
必要に応じてプリント配布	「介護の言葉と漢字」「介護の言葉と漢字ワークブック」他 一般財団法人国際交流&日本語支援	期末試験80% 書類提出、授業中の態度他20% 6回以上休むと失格となる。

介護の基礎Ⅱ

Fundamental Care Theory Ⅱ

《 1 単位(演習) / 1 年後期 》

1 年

担 当 者

田中優子・中野幹子・片山悟・一山幸子・川井小百合・折居明日香・田邊伸一

授 業 到 達 標

基本的な日本語（文法・漢字）の復習に加え、介護・福祉に関連する専門用語が理解でき、記述できるようになる。

授 業 内 容

国家試験に対応できるよう、介護・福祉に関連する専門用語の理解を深め、読解力・記述力向上を目指していきます。

準備学習等の内 容

介護の専門用語をきちんと理解・記述できるようになるまで、何度もくり返し復習して身につけましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	介護の言葉と意味①	
2	介護の言葉と意味②	
3	介護の言葉と意味③	
4	介護の言葉と意味④	
5	介護の言葉と意味⑤	
6	介護の言葉と意味⑥	
7	介護の言葉と意味⑦	
8	介護の言葉と意味⑧	
9	介護の言葉と意味⑨	
10	介護の言葉と意味⑩	
11	介護の言葉と意味⑪	
12	介護の言葉と意味⑫	
13	介護の言葉と意味⑬	
14	介護の言葉と意味⑭	
15	まとめ	
教科書	参考書・参考文献	評価基準
必要に応じてプリント配布	「外国人のための介護福祉士国家試験対策」「始めよう介護福祉士 国家試験対策」他 一般財団法人国際交流&日本語支援	期末試験80%書類提出 授業中の態度他20% 6回以上休むと失格となる。

社会福祉援助論

Theory of Social Welfare

《 2 単位(講義) / 2 年後期 / 介護福祉士必修 》

2 年

担 当 者

一 山 幸 子

授 業 到 達 目 標

- ①「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について説明することができる。
- ②介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養い、具体的事例について対応の根拠を説明することができる。

授 業 内 容

- ①人間の尊厳を保持した生活を支える介護について学ぶ。
- ②介護における自立と自律の考え方について学ぶ。
- ③権利擁護・アドボカシーについて学ぶ。
- ④人間の多面的理解について学ぶ。
障害者施設の施設長や日本介護福祉士会会長より、障害者・高齢者支援における尊厳の保持の意義と、尊厳の保持を担う介護福祉士の役割を学び、介護職・福祉職を目指す志を新たにす。

準 備 学 習 等 の 内 容

「介護の基本Ⅱ」「障害者福祉論」の内容を復習して理解を深めて下さい。
テキスト、配布プリントをしっかりと読んでノートにまとめ、予習・復習をきちんとやっていきましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	人間の尊厳と自立	障害者支援における尊厳の保持と発達保障①
2	人間の尊厳と自立	障害者支援における尊厳の保持と発達保障②
3	人間の尊厳と自立	介護福祉士をめぐる現状と介護・福祉職の役割①
4	人間の尊厳と自立	介護福祉士をめぐる現状と介護・福祉職の役割②
5	人間の尊厳と自立	(社会福祉と幸福)
6	人間の尊厳と自立	(基本的人権)
7	人間の尊厳と自立	(福祉と倫理)
8	人間の尊厳と自立	(社会福祉の専門職)
9	介護における尊厳の保持	(権利擁護・アドボカシー)
10	介護における尊厳の保持	(人権尊重・ハンセン病)
11	介護における尊厳の保持	(障害福祉におけるターミナルケア)
12	介護における自立支援	(身体的・精神的・社会的自立)
13	介護における自立支援	(障害者自立支援)
14	介護における自立支援	(尊厳を支える介護)
15	まとめ	

教科書	参考書・参考文献	評価基準
「介護福祉士 国試ナビ」中央法規、「障害者福祉論」全社協	「人間の尊厳と自立」ミネルヴァ、最新・介護福祉士養成講座「人間の理解」「障害の理解」中央法規	筆記試験…70% 受講態度・復習テスト…30%

高齢者健康学

Health Studies for the Elderly

《 2単位(講義) / 2年前期 / 介護福祉士必修 》

2年 担 当 者

小 車 淑 子

授 業 到 達 目 標

高齢者の身体的機能・知的機能の変化の特徴と、日常生活に及ぼす影響が理解できる。さらに、それらの変化に応じた対応・配慮が必要か学ぶ。
高齢者に多い症状や疾病の特徴と留意点、医療職との連携について理解できる。

授 業 内 容

老化や高齢者に多い疾患についての知識を習得し介護福祉士として保健医療職との連携を図ることができるよう必要な医学知識を講義する。

準 備 学 習 等 の 内 容

教科書の内容をふまえて講義をします。専門用語が多いので、各自で予習・復習をして授業に臨みましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	老化に伴うからだの変化と日常生活		
2	老化に伴うからだの変化と日常生活		
3	高齢者に多い症状や疾患、そして日常生活上の留意点		
4	老化に伴うからだの変化と日常生活		
5	復習(老化)		
6	高齢者と健康: 高齢者に多い症状		
7	高齢者と健康: 高齢者に多い病気とその留意点		
8	高齢者と健康: 高齢者に多い病気とその留意点		
9	高齢者と健康: 高齢者に多い病気とその留意点		
10	高齢者と健康: 高齢者に多い病気とその留意点		
11	高齢者と健康: 高齢者に多い病気とその留意点		
12	高齢者と健康: 高齢者に多い病気とその留意点		
13	高齢者と健康: 高齢者に多い病気とその留意点		
14	復習(高齢者に多い病気)		
15	まとめ		
教科書		参考書・参考文献	評価基準
①新・介護福祉士養成講座 発達と老化の理解 ②介護福祉士養成講座編集委員会 ③中央法規出版			筆記試験80%、レポート・受講態度20%

総合演習Ⅱ A

General Practice Ⅱ A

《 1 単位(演習) / 2 年前期 / 卒業必修・介護福祉士必修 》

2 年

担 当 者

一山幸子・中野幹子・片山悟・川井小百合・折居明日香・田邊伸一

授 業 到 達 標

- ① 1・2年生合同レクリエーション等の行事に協調性を持って準備・参加することができる。
- ② 担任による個別面談や卒業生による就職座談会、就職ガイダンス、福祉の職場説明会の参加等を通して各自の進路目標を定めることができる。
- ③ 履歴書の作成や社会人としてのマナーを学ぶことで、就職活動の準備ができる。

授 業 内 容

- ① クラスや学科、短大全体という単位でのグループワークを通して対人関係能力、コミュニケーション能力、企画実施能力等社会人基礎力を身につける。
- ② 進路指導においては、担任による個別面談や卒業生就職座談会、就職ガイダンス等によって、自分の適性と進学先・就職先を把握し各自の進路目標を定める。

準 備 学 習 等 の 内 容

- ・レクリエーション活動援助法や芸術療法等で学んだことを生かして1・2年生が楽しめる交流会を企画・実施しましょう。
- ・進路指導室を積極的に利用して指導を受け、早期に進路目標を定めましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ		
1	オリエンテーション、実行委員選出、1・2年生交流会（合同レクリエーション）企画	
2	1・2年生交流会（合同レクリエーション）準備①	
3	1・2年生交流会（合同レクリエーション）準備②	
4	1・2年生交流会（合同レクリエーション）	
5	1・2年生交流会（合同レクリエーション）	
6	担任による個別面談・履歴書の作成①	
7	担任による個別面談・履歴書の作成②	
8	担任による履歴書指導	
9	マナー講座	
10	実習施設及び就職ガイダンス①	
11	実習施設及び就職ガイダンス②	
12	就職模擬面接指導（ハローワーク講師より）	
13	卒業生を招いた就職座談会	
14	就職活動計画書作成（就職面談会に向けて）、担任による個別面談	
15	まとめ	
教科書	参考書・参考文献	評価基準
「就職活動ハンドブック2018」 西日本短期大学		筆記試験…50% 受講態度・各行事への取り組み状況、提出物、レポート課題…50%

総合演習ⅡB

General Practice Ⅱ B

《 1単位(演習) / 2年後期 / 卒業必修・介護福祉士必修 》

2年 担 当 者

一山幸子・中野幹子・片山悟・川井小百合・折居明日香・田邊伸一

授 業 到 達 標

- ①文化祭や介護の日イベント等の行事においてグループで協力し合い、準備・参加することができる。
- ②介護福祉士国家試験に向けて、各科目の復習をしつつ自己の課題を把握しコツコツと計画的に各自で学習を進めることができる。
- ③進路指導においては、担任による個別面談や進路指導室の積極的な活用、福祉の職場説明会の参加、早期からの自主実習等を通して、各自の就職・進学を進路を定めることができる。

授 業 内 容

- ①文化祭等の学校行事に準備段階から積極的に参加することによって、物事を成し遂げるためのノウハウを学ぶ。また、クラスや学科、短大全体という単位でのグループワークを通して対人関係能力、コミュニケーション能力、企画実施能力等社会人基礎力を身につける。
- ②介護福祉士国家試験に向けて、受験対策講座を積極的に受講し、各科目の復習をしつつ自己の課題を把握し各自で計画的に学習を進める。
- ③進路指導においては、担任による個別面談、施設長や介護部長及び卒業生による就職ガイダンス、編入対策講座を通じて各自の進路を定める。

準 備 学 習 等 の 内 容

- ・「芸術療法」や「癒しのケア」、「レクリエーション」、「手話」等の科目で学んできたことやサークル活動等での取り組みを活かし、文化祭等の行事で力を発揮できるよう、チームで協力して作り上げていきましょう。
- ・介護福祉士国家試験問題集や過去問題を繰り返し解き、解説をしっかりと読み、計画的に自主学習していきましょう。
- ・進路指導室を積極的に利用して指導を受け、自主実習を行う等、早期に自分の進路を定めましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ		
1	後期オリエンテーション、文化祭企画	
2	文化祭企画・準備①、担任による個別面談	
3	文化祭企画・準備②、担任による個別面談	
4	文化祭企画・準備③、担任による個別面談	
5	文化祭企画・準備④（1・2年生合同）	
6	文化祭参加	
7	進路・就職ガイダンス①	
8	進路・就職ガイダンス②	
9	福岡県介護フェスタ、認知症あったかホームコンサート参加（学外授業①）	
10	福岡県介護フェスタ、認知症あったかホームコンサート参加（学外授業②）	
11	「内定者向け注意事項」説明会、担任による個別面談	
12	内定者向け離職防止セミナー：労働法出前講義	
13	進路指導室へ進路状況報告書提出（全学生）、資格取得アンケート	
14	資格申請手続き、最終就職フェア案内	
15	まとめ	
教科書	参考書・参考文献	評価基準
「就職活動ハンドブック2018」 西日本短期大学		筆記試験…50% 受講態度、各行事への取り組み姿勢、レポート課題…50%

発達と老化の理解

Understanding of Development and Aging

《 2単位(講義) / 2年後期 / 介護福祉士必修 》

担 当 者

城 戸 由香里

2年

授 業 到 達 目 標

超高齢社会の日本では、その対策が急務です。介護福祉士はその重要な役割を担う。高齢者のこころを理解することは、介護（身体的・心理的）の質を高める。他者を理解することは難しいが少しでもより理解できることを目標とする。

授 業 内 容

人間の成長と発達
老化とは
老年期の発達課題
老化に伴うこころの変化
老化に伴う知的機能の変化と日常生活への影響

準備学習等の内 容

予習、復習をすること。できるだけ高齢者とかかわること。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

授 業 テ ー マ		
1	発達とは	
2	人間の発達段階と発達課題	
3	発達と個人差	
4	老化とは	
5	老年期の発達課題と人格	
6	老年期のセクシュアリティとサクセスフルエイジング	
7	老化が及ぼす心理的影響	
8	〃	
9	老いの価値観・受容	
10	精神的健康	
11	認知症・気分障害	
12	要介護による高齢者の心理	
13	老化に伴う知的機能の変化	
14	総括	
15	まとめ	
教科書	参考書・参考文献	評価基準
新・介護福祉士養成講座11巻 発達と老化の理解 中央法規		試験、授業レポート、授業態度を6：2：2の割合で評価する。

障害者福祉論

Theory of Welfare for the Disabled

《 2 単位(講義) / 2 年前期 / 卒業必修・介護福祉士必修 》

2 年 担 当 者

一 山 幸 子

授 業 到 達 標

- ①障害の基礎的理解として「障害の概念」や「障害者福祉の基本理念」について説明することができる。
- ②障害のある人の体験を理解し、障害が及ぼす心理的影響や障害の受容、日常生活への影響を生活支援技術と関連づけて説明することができる。
- ③障害のある人の自立支援を行うための「地域におけるサポート体制」、「チームアプローチ」、「家族への支援」について説明することができる。
- ④「障害者総合支援法」の概要を説明することができる。

授 業 内 容

- ①障害の基礎的理解として「障害の概念」「障害者福祉の基本理念」について学ぶ。
- ②知的障害、発達障害の原因と特性、障害が及ぼす心理的影響や障害者手帳制度等について精神科医より学ぶ。
- ③地域自立支援協議会や他職種との連携、家族支援について学ぶ。
- ④障害者総合支援法、特別支援教育の仕組みについて学ぶ。

準 備 学 習 等 の 内 容

- ・障害児者や高齢者に関わるボランティア活動に積極的に参加し、障害児者や高齢者、そして家族と直接関わることによって、当事者及び家族のニーズを理解して下さい。
- ・新聞、テキスト、参考文献、配布プリントなどをしっかり読み予習・復習し、重要語句をノートにまとめて下さい。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	障害の基礎的理解 (障害の概念)		
2	障害の基礎的理解 (障害の捉え方、ICIDH と ICF)		
3	障害の基礎的理解 (障害福祉の基本理念)		
4	障害の医学的側面の基礎的知識 (知的障害)		
5	障害の医学的側面の基礎的知識 (発達障害)		
6	障害の医学的側面の基礎的知識 (障害児・者の心理)		
7	連携と協働 (地域におけるサポート体制)		
8	連携と協働 (チームアプローチ)		
9	家族への支援 (障害受容の過程)		
10	家族への支援 (家族のレスパイトケア)		
11	障害者差別解消法		
12	障害者総合支援法①		
13	障害者総合支援法②		
14	障害者総合支援法③		
15	まとめ		
教科書		参考書・参考文献	評価基準
「社会福祉学習双書2018 障害者福祉論」全社協、「介護福祉士国試ナビ」中央法規		最新・介護福祉士養成講座「障害の理解」「介護の基本Ⅰ」中央法規、「よくわかる発達障害」「介護福祉用語辞典」「社会福祉用語辞典」ミネルヴァ、「特別支援教育総論」北大路書房	受講態度・復習テスト…30% 筆記試験…70%

介護の基本Ⅳ

Basic Care Theory Ⅳ

《 2 単位(講義) / 2 年前期 / 介護福祉士必修 》

担 当 者

一山 幸子・川井小百合・折居明日香

2 年

授 業 到 達 目 標

- ①「介護サービス」について、障害児者に対する個別支援計画、及び障害児者療育支援の内容について理解し、知的障害者の利用者像、アセスメント、介護計画を作成することができる。
- ②「介護実践における連携」について、障害児者分野のチームアプローチと地域連携について説明することができる。

授 業 内 容

- ①障害児者の個別支援計画について学ぶ。
 - ②知的障害者の利用者像、アセスメント、介護計画を作成し、実施・評価を行う。
 - ③障害児者領域の連携・協働について学ぶ。
- 知的障害者施設（障害者支援施設）の現場職員より、知的障害者の個別支援計画の実際について学ぶ。

準 備 学 習 等 の 内 容

介護過程Ⅰ、介護過程ⅡA、介護の基本Ⅱ、生活支援技術（障害形態別）、障害の理解、障害者福祉論などの学習内容をきちんと復習して、障害児者に対する介護過程（個別支援計画）の理解を深めて下さい。そして、介護の基本Ⅳで学んだことを介護過程ⅡBの学習や実習Ⅱの実践に活かして下さい。ロールプレイングの演習もしますので、ぜひ積極的に体験して下さい。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	介護実践における連携（知的障害の理解と支援方法、多職種連携①）	
2	介護実践における連携（知的障害の理解と支援方法、多職種連携②）	
3	介護実践における連携（知的障害の理解と支援方法、多職種連携③）	
4	介護サービス（利用者像①）	
5	介護サービス（利用者像②）	
6	介護サービス（アセスメント①）	
7	介護サービス（アセスメント②）	
8	介護サービス（アセスメント③）	
9	介護サービス（介護計画①）	
10	介護サービス（介護計画②）	
11	介護サービス（介護計画③）	
12	介護サービス（実施・評価①）	
13	介護サービス（実施・評価②）	
14	介護サービス（実施・評価③）	
15	まとめ	
教科書	参考書・参考文献	評価基準
「介護福祉士国試ナビ」	最新・介護福祉士養成講座「介護過程」「生活支援技術Ⅲ」中央法規、「教育と医学2014.6 就学前における発達障害児の理解」慶応義塾大学出版会	受講態度・課題への取り組み姿勢…30% 課題提出(利用者像・アセスメント・介護計画)…70%

介護の基本V

Basic Care Theory V

《 2単位(講義) / 2年後期 / 介護福祉士必修 》

2年 担 当 者

折居明日香・田邊 伸一

授 業 到 達 目 標

- ①ケアマネジメント及びケアプランの流れと仕組み、高齢者の介護サービスの概要を理解し説明できる。
- ②介護従事者としての健康管理の必要性を理解し関わる諸制度を説明できる。
- ③高齢者の分野を中心とした介護の基本の科目の要点を再確認し、覚えることができる。

授 業 内 容

- ・ケアマネジメントやケアプランについて教科書とこれまで学んできた介護過程と重ね合わせながら学びます。介護従事者としての健康管理に関わる諸制度を学びます。
- ・模擬問題などを使い国家試験に対応できるよう知識の習得を目指します。

準 備 学 習 等 の 内 容

- ・授業で取り組む問題や模擬試験の予習、復習を必ず行いましょう。
- ・授業が学び合う雰囲気となるように、1人ひとりが意欲を持ち取り組んでください。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	オリエンテーション ケアマネジメント ケアプラン	
2	ケアマネジメント・ケアプラン	
3	介護従事者の健康と安全	
4	介護従事者の健康と安全	
5	介護の基本のまとめ	
6	介護の基本のまとめ	
7	介護の基本のまとめ	
8	介護の基本のまとめ	
9	介護の基本のまとめ	
10	介護の基本のまとめ	
11	介護の基本のまとめ	
12	介護の基本のまとめ	
13	介護の基本のまとめ	
14	介護の基本のまとめ	
15	介護の基本のまとめ	
教科書	参考書・参考文献	評価基準
見て覚える！介護福祉士国試ナビ 中央法規 介護福祉士国家試験模擬問題集 中央法規出版 必要に応じてプリント配布		小テスト50%、筆記試験50%を総合的に評価する。

家政学演習

Practice in Home Economics

《 1 単位(演習) / 2 年後期 / 卒業必修・介護福祉士必修 》

担 当 者

伊勢木 紀三子

2 年

授 業 到 達 目 標

いかなる状況において、その人の自立を目指し、滞在能力を維持できるよう、介護者として安全、適切な家事技術と知識について、学習することを目的とする。

介護者の立場に寄り添った支援が行えるよう、生活習慣病等の知識や衛生管理、調理技術の体験を交えながら、現場で実践に役立つ能力を身につけることを目的とする。

授 業 内 容

家庭生活の意義を学び、家事経営、即ち、家庭や施設における自己表現につながる、家庭生活の共同、経営のありかたを考え、生活習慣病の知識等を身につける。

実習を通し、自立支援の視点から、食事作りの実践が出来る能力を身につける。

2 コマ連続で講義、演習を行う。

準 備 学 習 等 の 内 容

教科書の他にテレビや媒体物等での高齢者介護の問題や実態等の報道、に耳を傾ける。

実習時、食事介護時の様子をよく観察しておく。

日常の調理を積極的に行い、料理作りに慣れておく。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

授 業 テ ー マ		
1	自立に向けた家事の介護（意義、構造、機能、変貌）	
2	栄養学（5 大栄養素）	
3	高齢者に向けた献立、食事作りの考え方	
4	高齢者に起こりがちな生活習慣病	
5	生活習慣病の症例別、調理例①	
6	生活習慣病の症例別、調理例②	
7	衛生管理①手指付着菌の実習②食品表示の見方（食品衛生法）	
8	高齢者の保健食実習①（バランス献立）	
9		
10	高齢者の保健食実習②（咀嚼困難な人向けの献立）	
11		
12	高齢者と一緒に楽しめる行事食実習（材料の使いこなし）	
13		
14	福岡の郷土料理を取り入れた献立実習（市販品の活用）	
15		
教科書	参考書・参考文献	評価基準
「MINERVA 福祉資格 テキスト介護福祉士介護編」 ミネルヴァ書房 「見て覚える！介護福祉士 国試ナビ」 中央法規	プリント配布 食品成分表（一橋出版）	受講態度10%、実技60%、提出物30%

生活支援技術（食事）

Life Support Skills (Meal)

《 1 単位(演習) / 2 年前期 / 介護福祉士必修 》

2 年 担 当 者

折居明日香・山本 恭大

授 業 到 達 標

- ① 食事の意義・目的を理解し、自立支援を目標とした支援方法を実践することができる。
- ② 嚥下の原理や対象者に応じた食事形態の種類、調理法を理解することができる。
- ③ 食事に適する環境整備や福祉用具の選択など対象者に応じた支援を考え、実践することができる。

授 業 内 容

食事の基本的知識、介護が必要な人に応じた食事介助や口腔ケアの支援方法を学びます。授業では（個々の能力や習得状況に応じ、時間外に補講や技術演習を実施することもあります）、利用者役・介助者役になってグループ演習を中心にを行います。

準 備 学 習 等 の 内 容

介護福祉士に必要な介護技術を習得するためには、反復練習が大切です。授業では、技術向上を目指し、1人ひとりが意欲を持って演習に取り組んでください。介護福祉士となる自覚と心構えを持って、真摯な態度で授業に臨みましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	自立に向けた食事の介護（オリエンテーション・食事介助に必要な基礎知識）
2	自立に向けた食事の介護（食事介助に必要な基礎知識）
3	自立に向けた食事の介護（食事介助に必要な基礎知識）
4	自立に向けた食事の介護（食事介助に必要な基礎知識）
5	自立に向けた食事の介護（食事介助の方法）
6	自立に向けた食事の介護（食事介助の方法）
7	自立に向けた食事の介護（食事介助の方法）
8	自立に向けた食事の介護（食事介助の方法）
9	自立に向けた食事の介護（口腔ケアについて）
10	自立に向けた食事の介護（口腔ケアについて）
11	自立に向けた食事の介護（介護食の調理）
12	自立に向けた食事の介護（介護食の調理）
13	自立に向けた食事の介護（振り返り）
14	実技・まとめ
15	実技・まとめ

教科書	参考書・参考文献	評価基準
必要に応じてプリントを配布	「目で見てわかる介護術」 成美堂出版 「介護のための摂食・嚥下障害の理解とケア」ナツメ社	受講態度20%、試験結果80%を総合的に評価する

生活支援技術（排泄）

Life Support Skills (excretion)

《 1 単位(演習) / 2 年前期 / 介護福祉士必修 》

担 当 者

田邊 伸一・山本 恭大

2 年

授 業 到 達 標

- ・ 利用者の状態に応じ、潜在能力を活用した排泄の介助ができる。
- ・ 自立に向けた排泄に関する福祉用具について理解し、適する排泄方法の選択・支援ができる。
- ・ 排泄に関連する心理的側面や医学的知識（消化器・泌尿器機能）とリンクした排泄の支援について理解を深めることができる。

授 業 内 容

排泄の支援技術は、移動・清潔・着脱などの支援技術の総まとめともいえるべき応用技術であり、非常にデリケートな部分のケアです。さらには、排泄に関連する医学的知識や利用者の尊厳など、単に技術を学ぶだけでなく、利用者の身体状況や心理、疾病に応じた技術の習得を目指します。（個々の能力や習得状況に応じ、時間外に補講や技術演習を実施することもあります。）

準 備 学 習 等 の 内 容

排泄の技術を習得するだけでなく、言葉かけや配慮の方法を学び、身だしなみを整え、凛とした姿勢で授業に臨んでください。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ		
1	オリエンテーション：排泄の意義と目的	
2	自立に向けた排泄の介護：消化器・泌尿器機能の基礎知識	
3	〃	
4	〃	
5	自立に向けた排泄の介護：排泄介助の基礎知識	
6	〃	
7	自立に向けた排泄の介護：自立した方の排泄介助	
8	自立に向けた排泄の介護：一部介助の必要な方への排泄介助	
9	自立に向けた排泄の介護：全介助の必要な方への排泄介助	
10	自立に向けた排泄の介護：事例による排泄介助の演習	
11	〃	
12	自立に向けた排泄の介護：医療職との連携のポイント	
13	〃	
14	自立に向けた排泄の介護：排泄介助の総復習	
15	まとめ	
教科書	参考書・参考文献	評価基準
必要に応じてプリント配布	『見て覚える！介護福祉士 国試ナビ』中央法規	受講態度20%、試験結果80%を総合的に評価する

生活支援技術（家事・終末期）

Life Support Skills (Housework Terminal stage)

《 1 単位(演習) / 2 年前期 / 介護福祉士必修 》

2年 担 当 者

田 中 優 子

授 業 到 達 標

在宅生活において、家事が出来なくなることは生活の継続が困難になるということを理解し、家事支援の重要性を学び、「人が生きていく」ための支援方法を習得する。

授 業 内 容

「人が生きていく」うえで、生活を継続していくために家事は必要不可欠であることを理解する。人の生活には生活習慣、価値観等の個性や多様性があることを理解し、それらに対応できる知識・技術の習得。2 コマ連続の講義・演習を行う。

準備学習等の
内 容

日常生活の中で、自宅における家事の実際を知っておく。テキスト・演習物品を忘れないこと。

授 業 計 画 等

授業テーマ

1	オリエンテーション：家事の意義と目的				
2	自立に向けた家事の介護：家事に関する基礎知識 1				
3	自立に向けた家事の介護：家事に関する基礎知識 2				
4	自立に向けた家事の介護：家事に関する基礎知識 3				
5	自立に向けた家事の介護：事例検討				
6	自立に向けた家事の介護：他職種の役割と協働				
7	自立に向けた家事の介護：家事の介護の基本 1				
8	自立に向けた家事の介護：家事の介護の基本 2				
9	自立に向けた家事の介護：家事演習				
10	自立に向けた家事の介護：まとめ				
11	終末期の介護：終末期における介護の意義・目的				
12	終末期の介護：終末期における介護				
13	終末期の介護：臨終時の介護				
14	終末期の介護：多職種連携				
15	終末期の介護：家族支援				
教科書		参考書・参考文献		評価基準	
新・介護福祉士養成講座－6 「生活支援技術 I」中央法規				筆記試験（70%） 授業態度（30%） 総合的に評価	

生活支援技術（障害形態別）

Life Support Skills (Classification of Impairments)

《 1 単位(演習) / 2 年前期 / 介護福祉士必修 》

2 年

担 当 者

中野 幹子・一山 幸子

授 業 到 達 標

身体障害・精神障害・知的障害・発達障害をもつ状態像を理解し、さらに利用者の尊厳を保持し各々の障害状況に応じた生活支援技術を用いて自立に向けた援助を行うことができるようになる。

授 業 内 容

「人間の尊厳」や「自立」の考え方を踏まえたうえで各々の障害状況を理解し、それぞれの対象者に応じた介護・生活支援技術を習得できるよう、具体的な援助事例を紹介しながら講義と演習を行う。

準 備 学 習 等 の 内 容

- ・障害を一つの個性として捉え、日常生活を適切に支援できるように理解を深めてください。
- ・授業で学んだことを復習し、授業内容の要点をノートにまとめていってください。
- ・既定の介護実習だけでなくボランティア活動に積極的に取り組み、就職につなげてください。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ		担 当 者
1	オリエンテーション・生活支援：知的障害に応じた介護	一山
2	生活支援：発達障害に応じた介護	一山
3	生活支援：自閉症スペクトラム障害（ASD）に応じた介護	一山
4	生活支援：注意欠陥・多動性障害（ADHD）に応じた介護、まとめ	一山
5	精神障害に応じた介護	中野
6	ベテルの家の当事者研究	中野
7	ベテルの家の当事者研究	中野
8	当事者研究のまとめ	中野
9	重度心身障害に応じた介護	中野
10	重度心身障害に応じた介護	中野
11	疾患別の介護	中野
12	重度心身障害に応じた介護	中野
13	疾患別の介護	中野
14	疾患別の介護	中野
15	まとめ	一山
教科書	参考書・参考文献	評価基準
「見て覚える！介護福祉士国試ナビ」中央法規出版	最新・介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅲ」・「障害の理解」、「知的障害のある子どもの保育」中央法規、「うちの火星人」光文社、「自閉症の人たちを支援するということ TEACCH プログラム新世紀へ」朝日新聞厚生文化事業団	受講態度・その他定期試験など総合的に勘案する。 筆記試験80% 受講態度20%

生活支援技術（総論）

Life Support Skills (general remarks)

《 1 単位(演習) / 2 年後期 / 介護福祉士必修 》

2 年 担 当 者

川井小百合・田中 優子

授 業 到 達 標

- ・ 自立に向けた様々な生活支援技術の意義と目的を理解できる
- ・ 即戦力となる介護従事者を目指して、より専門的で根拠に基づいた幅広い知識を身につけることができる

授 業 内 容

生活支援技術（総論）では、これまでの「生活支援技術」の授業内容をもとに、重要なポイントを再確認すると共に、介護従事者としてより専門性の高い知識の習得を目指します。（個々の能力や習得状況に応じ、時間外に補講を実施することもあります。）

準 備 学 習 等 の 内 容

生活支援技術の総仕上げです。これまでの講義・演習内容を振り返り、実習での実践体験とリンクさせながら、生活支援の在り方を考えていきましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	オリエンテーション		
2	総括： <u>生活支援・居住環境の整備</u>		
3	総括： <u>自立に向けた家事の介護</u>		
4	総括： <u>自立に向けた移動の介護</u>		
5	総括： <u>自立に向けた身じたく・入浴・清潔保持の介護</u>		
6	総括： <u>自立に向けた食事の介護</u>		
7	総括： <u>自立に向けた排泄の介護</u>		
8	総括： <u>自立に向けた休息・睡眠の介護</u>		
9	総括： <u>終末期の介護</u>		
10	総括： <u>障害の医学的側面の基礎的知識</u>		
11	総括： <u>障害形態別に応じた介護</u>		
12	まとめ		
13	〃		
14	〃		
15	〃		
	教科書	参考書・参考文献	評価基準
	必要に応じてプリント配布	『見て覚える！介護福祉士 国試ナビ』中央法規	受講態度20%、試験結果80%を総合的に評価する

介護過程ⅡA

Care Prosses Ⅱ A

《 2 単位(演習) / 2 年前期 / 介護福祉士必修 》

2 年

担 当 者

川井小百合・中野幹子・片山悟・一山幸子・折居明日香・田邊伸一・山本恭大

授 業 到 達 標

- ①利用者の情報を整理し、記述することができる。
- ②利用者とのかかわりについて再構成し、共感的理解と自己覚知ができる。
- ③利用者の生活上の問題となる状況に気づきアセスメントを記述することができる。
- ④演習事例で、具体的な介護方法を考え、介護計画・実施・評価・考察の書き方を理解することができる。

授 業 内 容

実習(Ⅱ)に向けて『アセスメント』『介護計画の立案』『実施・評価・考察』の流れを、演習をとおして実践的に学んでいきます。
授業は主にグループワーク(GW)を行います。グループメンバーとの意見交換により、積極的に学ぶ姿勢で取り組みましょう。

準 備 学 習 等 の 内 容

介護過程の展開において、気づくこと、観察すること、実践・評価・考察することが必要になります。これまで学んだ知識・技術を活かして、考えることができるように意識しておきましょう。また、介護過程の記述には文章力が不可欠です。日頃から漢字や文章を書く力を磨いていくように心掛けましょう。

授 業 計 画 等

週	コマ	授業テーマ	週	コマ	授業テーマ
1	1	オリエンテーション：介護過程の概要	8	16	介護過程の実践的展開：アセスメント GW 発表
	2	介護過程の実践的展開：利用者像記述指導	9	17	介護過程の実践的展開：アセスメント記述指導
2	3	〃		18	〃
	4	〃	10	19	介護過程の実践的展開：実習(Ⅰ)－3事例記述指導
3	5	利用者の共感的理解と自己覚知		20	〃
	6	プロセスレコード記述指導	11	21	〃
4	7	〃		22	〃
	5	8	〃	12	23
9		〃	24		〃
6	10	介護過程の実践的展開：模擬演技	13	25	介護過程の実践的展開：介護計画発表準備 GW
	11	〃		26	〃
7	12	介護過程の実践的展開：アセスメント GW	14	27	介護計画実践演習グループ発表
	13	〃		28	〃
8	14	〃	15	29	介護計画記述指導
	15	介護過程の実践的展開：アセスメント GW 発表		30	〃

教科書	参考書・参考文献	評価基準
必要に応じてプリント配布	新 介護福祉士養成講座 9 「介護過程」中央法規	再構成20%、アセスメント30%、介護計画30%、レポート提出や授業中の態度20%として総合評価する。

介護過程ⅡB

Care Process Ⅱ B

《 1 単位(演習) / 2 年後期 / 介護福祉士必修 》

2 年 担 当 者

川井小百合・中野幹子・片山悟・一山幸子・折居明日香・田邊伸一・山本恭大

授 業 到 達 標

①実習(Ⅱ)において担当した利用者の情報を整理し記述することができる。②利用者の生活上の問題となる状況を把握し、解釈・関連付け・統合化し記述することができる。③解決すべき課題を明確にし記述することができる。④利用者の望む生活を目指した目標を記述することができる。⑤利用者の個性に応じた、具体的な介護方法を記述することができる。⑥実施・評価・考察を記述することができる。⑦介護過程を発表することができる。

授 業 内 容

実習の集大成である、介護過程報告会での発表のため、実習(Ⅱ)で担当した利用者の「介護過程(利用者像・アセスメント・介護計画)」を修正し、報告会に向けて個別指導を受けながら準備を進めていきます。

準 備 学 習 等 の 内 容

研究発表の経験となる良い機会です。介護過程の展開について、もう一度見直し、自己研鑽の姿勢で修正を重ねて仕上げてください。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	実習(Ⅱ)事後指導						
2	〃						
3	介護過程の実践的展開：実習(Ⅱ)介護過程 記述指導						
4	〃						
5	〃						
6	〃						
7	〃						
8	〃						
9	〃						
10	介護過程の実践的展開：実習(Ⅱ)介護過程報告会準備						
11	介護過程の実践的展開：実習(Ⅱ)介護過程報告会						
12	〃						
13	〃						
14	〃						
15	まとめ						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>教科書</th> <th>参考書・参考文献</th> <th>評価基準</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>必要に応じてプリント配布</td> <td>新 介護福祉士養成講座9 「介護過程」中央法規</td> <td>受講態度20%、介護過程報告会の評価80%を総合的に評価する</td> </tr> </tbody> </table>	教科書	参考書・参考文献	評価基準	必要に応じてプリント配布	新 介護福祉士養成講座9 「介護過程」中央法規	受講態度20%、介護過程報告会の評価80%を総合的に評価する
教科書	参考書・参考文献	評価基準					
必要に応じてプリント配布	新 介護福祉士養成講座9 「介護過程」中央法規	受講態度20%、介護過程報告会の評価80%を総合的に評価する					

医療的ケアA

Medical Care A

《 2単位(講義) / 2年前期 / 介護福祉士必修 》

担 当 者

小 車 淑 子

2年

授 業 到 達 目 標

- ①痰の吸引や経管栄養を安全に実施するために必要な、リスクマネジメントや救急蘇生の基礎を理解できる。
- ②介護現場で起こりうる感染の基礎知識と予防対策、介護職が実施する清潔保持の方法を理解できる。
- ③健康時・異常時を状態把握するための知識を理解し、観察と報告ができる。急変時の対応が理解できる。
- ④痰の吸引を行うにあたり、必要な呼吸器系の仕組みや痰の吸引の必要性などの基礎的な知識を理解できる。

授 業 内 容

医療職との連携のもと、経管栄養や喀痰吸引等の医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識を習得する科目です。感染予防や異常の早期発見、緊急時の対応について、パワーポイント・教科書等を用いながら授業を進めていきます。

準 備 学 習 等 の 内 容

医療的ケアの教科書や人体構造と疾病の教科書を読んで、予習・復習をしていきましょう。医学的専門用語が多いので、その都度理解していきましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

授 業 テ ー マ		
1	オリエンテーション：医療的ケア実施の基礎	安全な療養生活とリスクマネジメント
2	感染予防と清潔保持	
3	感染予防と清潔保持	
4	感染予防と清潔保持	
5	復習（リスクマネジメント・感染予防）	
6	健康状態の把握	
7	健康状態の把握	
8	健康状態の把握	
9	復習（健康状態の把握）	
10	高齢者および障害児・者の「たんの吸引」概論	
11	高齢者および障害児・者の「たんの吸引」概論	
12	救急蘇生法：演習	
13	高齢者および障害児・者の「たんの吸引」概論	
14	復習（痰の吸引）	
15	まとめ	
教科書	参考書・参考文献	評価基準
①「MINERVA 福祉資格テキスト医療的ケア」②竹宮敏子監修③ミネルヴァ書房		筆記試験80%、レポート・受講態度20%

医療的ケアB

Medical care B

《 1 単位(演習) / 2 年前期 / 介護福祉士必修 》

2 年 担 当 者

中野 幹子・山本 恭大

授 業 到 達 標

- ①経管栄養に伴う個人や家族の気持ちを受容できるようになる。
- ②医療の制度や法律についての理解を深めることができる。消化器のしくみが理解できるようになる。
- ③経管栄養の演習を通して実施できるようになる。
- ④経管栄養実施時の感染予防について理解できるようになる。
- ⑤経管栄養の事故発生に対する対策が理解できるようになる。

授 業 内 容

前半の講義では、経管栄養の対象者の理解と医療の制度、チーム連携の方法を学ぶ。その後経管栄養の実施方法を学び、演習で実施・演習を行い実施時の注意点を学ぶ。後半では、経管栄養の感染対策と事故発生時の注意点を学ぶ。

準 備 学 習 等 の 内 容

医療保険制度や介護保険制度の在宅医療の内容を復習し消化器のしくみについて予習を行ってください。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	個人の尊厳と自立、利用者や家族の気持ちを理解する。
2	医療の倫理、保健医療に関する制度・法律について
3	チーム医療と介護職員との連携について
4	消化器のしくみとはたらき
5	消化器でよくある症状
6	経管栄養の注入物の種類と特徴
7	経管栄養に伴う留意点・経管栄養に伴うケア：演習
8	経管栄養に伴う留意点・経管栄養に伴うケア：演習
9	経管栄養に伴う留意点・経管栄養に伴うケア：演習
10	経管栄養に伴う留意点・経管栄養に伴うケア：演習
11	経管栄養に伴う留意点・経管栄養に伴うケア：演習
12	経管栄養の感染対策
13	経管栄養の事故発生対策
14	経管栄養の実技チェック
15	経管栄養の実技チェック

教科書	参考書・参考文献	評価基準
MINERVA 福祉資格テキスト 医療的ケア、竹宮敏子監修、ミネルヴァ書房		筆記試験50%、実技試験50%として総合評価する。単位認定は、筆記試験・実技試験ともに合格点に達していることを必要とする。

医療的ケアC

Medical Care C

《 1 単位(演習) / 2 年後期 / 介護福祉士必修 》

担 当 者

小車 淑子・中野 幹子・山本 恭大

2 年

授 業 到 達 標

- ① たんの吸引を実施するために必要な、人体構造と機能・小児の吸引・急変状態への対応等 医学的知識を理解できる。
- ② 人工呼吸器の仕組みを理解し、装着者への介護の留意点を理解できる。
- ③ たんの吸引を受ける要介護者や家族の心理を考え、支援することができる。
- ④ たんの吸引について、必要物品の準備・片づけ、適切・安全な実施、状態観察、報告・記録ができる。
- ⑤ 医療関連領域に関する知識を理解することができる。

授 業 内 容

たんの吸引演習では、鼻腔・口腔内吸引（通常手順・人工呼吸器装着手順）、気管内吸引（通常手順・人工呼吸器装着手順）について、計4項目の演習を実施する。演習は、準備・コミュニケーション・観察・実施・報告まで含む評価票を用いて、5回ずつ実施したうえで、実技試験を実施する。後半は、医療的ケアに関連する医学関連の知識を復習する。

準 備 学 習 等 の 内 容

専門的知識と確実な技術が求められる科目です。各自で清潔操作や実施手順など、繰り返し自己研鑽をつんでください。たんの吸引をする際に、要介護者の状態を観察し、その理由を考え、支援ができるように実践をイメージしながら学びましょう。

授 業 計 画 等

週	コマ	授業テーマ	担当者	週	コマ	授業テーマ	担当者
1	1	講義：オリエンテーション	小車・山本	8	16	演習：気管内吸引（人工呼吸器）	小車・山本
	2	講義：高齢者および障害児・者の「痰の吸引」概論	〃	9	17	実技試験	全 員
2	3	講義：喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）	〃		18	実技試験	〃
	4	演習：鼻腔・口腔内吸引（通常手順）	〃	10	19	医療関連領域講義：こころとからだ	〃
3	5	演習：鼻腔・口腔内吸引（通常手順）	〃		20	医療関連領域講義：こころとからだ	〃
	6	演習：鼻腔・口腔内吸引（通常手順）	〃	11	21	医療関連領域講義：こころとからだ	小車・山本
4	7	演習：鼻腔・口腔内吸引（通常手順）	〃		22	医療関連領域講義：こころとからだ	〃
	5	8	演習：鼻腔・口腔内吸引（通常手順）	〃	12	23	医療関連領域講義：こころとからだ
9		演習：鼻腔・口腔内吸引（非侵襲的人工呼吸器）	〃	24		医療関連領域講義：こころとからだ	〃
6	10	演習：鼻腔・口腔内吸引（非侵襲的人工呼吸器）	〃	13	25	医療関連領域講義：発達と老化	〃
	11	演習：鼻腔・口腔内吸引（非侵襲的人工呼吸器）	〃		26	医療関連領域講義：発達と老化	〃
7	12	演習：気管内吸引（通常手順）	〃	14	27	医療関連領域講義：発達と老化	〃
	13	演習：気管内吸引（通常手順）	〃		28	医療関連領域講義：障害の理解	〃
8	14	演習：気管内吸引（通常手順）	〃	15	29	医療関連領域講義：障害の理解	〃
	15	演習：気管内吸引（人工呼吸器）	〃		30	まとめ	〃
教科書(必須)			参考書・参考文献		評価基準		
① MINERVA 福祉資格テキスト 医療的ケア②竹宮敏子監修③ ミネルヴァ書房					筆記試験50%、実技試験50%として遅刻・欠席・私語等を減点し、総合評価する。単位認定は、筆記試験・実技試験ともに合格点に達していることを必要とする。		

国家試験特講A

State examination measure special lecture A

《 1 単位(演習) / 2 年後期 》

2 年 担 当 者

一山 幸子・片山 悟

授 業 到 達 目 標

1. 模擬問題・過去問にくり返し取り組むことで、出題傾向を把握し、対応できるようになる。
2. 国家試験で出題頻度の高い福祉の制度など、各分野のポイントを理解できるようになる。

授 業 内 容

介護福祉士国家試験対策として、試験を解くためのポイントや心構えを指導します。また、くり返し過去問・模擬試験などに取り組み、国家試験に備えて苦手克服を目指します。

準 備 学 習 等 の 内 容

介護福祉士国家試験の試験範囲は幅広く、これまでに学んだ各科目の授業内容を各自でコツコツと計画的に復習しておくことが必須です。自信を持って国家試験に臨めるよう、自ら学ぶ姿勢で数多くの問題に挑戦して、解答のポイントをつかんでいき、得点アップを目指してください。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	オリエンテーション、国家試験対策講座①	
2	国家試験対策講座②	
3	国家試験対策講座③	
4	国家試験対策講座④	
5	国家試験対策講座⑤	
6	国家試験対策講座⑥	
7	国家試験対策講座⑦	
8	国家試験対策講座⑧	
9	国家試験対策講座⑨	
10	国家試験対策講座⑩	
11	国家試験対策講座⑪	
12	国家試験対策講座⑫	
13	国家試験対策講座⑬	
14	国家試験対策講座⑭	
15	まとめ	
教科書	参考書・参考文献	評価基準
「介護福祉士国家試験模擬問題集」中央法規 他	『見て覚える！介護福祉士 国試ナビ』中央法規、「介護福祉士 国家試験問題解説」クエスチョン・バンク、「介護福祉士過去5年問題集」コンデックス情報研究所、「介護福祉用語辞典」ミネルヴァ	受講態度20%、試験結果80%を総合的に評価する

国家試験特講B

State examination measure special lecture B

《 1 単位(演習) / 2 年後期 》

2 年

担 当 者

中 野 幹 子

授 業 到 達 標 目

「こころとからだ」と「医療的ケア」の分野の国家試験対策を行う。直前対策として頻度別に理解できるようになる。

授 業 内 容

国家試験の過去問題集を中心に解説を行い、学生各自オリジナルなワークブックを作成することで、焦点を絞った内容の指導を行う。

準備学習等の内 容

1 年時より、国家試験をイメージできる授業内容に変更し、問題集や参考資料を見る習慣をつける。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	人間と社会
2	人間と社会
3	人間と社会
4	こころとからだのしくみ
5	こころとからだのしくみ
6	こころとからだのしくみ
7	こころとからだのしくみ
8	介護
9	介護
10	介護
11	介護
12	医療的ケア
13	医療的ケア
14	医療的ケア
15	まとめ

教科書	参考書・参考文献	評価基準
なし	介護福祉士過去5年問題集 18年度版 成美堂出版	期末試験評価80%、国家試験対策への積極的な姿勢 20%で評価する。 6 回以上の欠席は失格となる。

介護実習

Practice in Care

《 10単位(実習) / 2年通年 / 介護福祉士必修 》

2年 担 当 者

中野幹子・片山悟・一山幸子・川井小百合・折居明日香・田邊伸一・山本恭大

授 業 到 達 標 目

実習（Ⅰ）－3：①利用者の障害や状況に応じた生活支援ができる。②担当利用者の情報を収集し、生活上の問題となる状況に気づき、解釈・関連付け・統合化を行い、解決すべき課題を考えることができる。
実習（Ⅱ）：①担当利用者のアセスメントを実施し、全体像を把握して利用者が望む生活を考え、介護計画を実施・評価考察できる。②居宅・施設におけるリスクマネジメントが理解できる。③多職種の種類と役割を学び、必要性を理解する。

授 業 内 容

実習（Ⅰ）－3：担当利用者の情報収集・解釈・関連付け・統合化（アセスメント）を記録し、カンファレンスで総括とともに発表します。毎日の日誌も実習指導者に提出します。
実習（Ⅱ）：担当利用者のアセスメントから介護計画の立案、実施・評価・考察まで、一連の介護過程を実践・記録し、カンファレンスで総括とともに発表します。毎日の日誌も実習指導者に提出します。

準 備 学 習 等 の 内 容

介護実習は、社会で貢献できる人材となるための自己研鑽の場です。目標を明確にして、謙虚な姿勢で実習に臨みましょう。
介護過程の展開では、観察力・問題点を感じ取る感性・あれこれと理由を考え具体的な介護方法を考える創造力と実践的なコミュニケーション能力、科学的な根拠づけができる専門的知識、文章力と、これまで学んできたすべての知識と技術が求められます。日頃から考える力を養い、自己研鑽を積みましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1. 実習（Ⅰ）－3（2年次 6月 12日間）

（目的）

生活場面における利用者の状態を観察し、解決すべき課題に気づき、利用者の心身の状況に応じた支援技術を学ぶ。さまざまな介護の場を体験し、居宅・施設におけるリスクマネジメントを学ぶ。

2. 実習（Ⅱ）（2年次 8月末～9月 21日間）

（目的）

利用者について、身体的心理的社会的側面から情報を収集し、全体像を把握し解決すべき課題を考える。その課題の科学的根拠を明確にし、社会的背景を加味した利用者の心理を推察して、その理由と予測されることを考える。また、利用者や家族の望む生活を理解し介護目標を設定する。

目標にそったかわり方を含む具体的な介護の方法を考える。利用者の状況に応じた具体的な介護を実践し評価・考察する。

介護に関連する、多職種の種類や職務を理解し連携の必要性を認識する。

教科書	参考書・参考文献	評価基準
なし	MINERVA 福祉資格テキスト 介護福祉士 介護編	実習段階ごとの介護実習評価表により評価する。実習指導者の評価50%、巡回担当教員の評価50%とし、介護実習会議を経て総合的に評価する。

障害児支援論

Support for Disabled Children

《 2 単位(講義) / 2 年後期 》

担 当 者

昇 地 勝 人

2 年

授 業 到 達 標

国際障害者年を契機として、ノーマライゼーションの理念の普及、バリアフリー・ユニバーサルデザインの推進、文部科学省の特別支援教育、インクルージブ教育の進展等、障害者を取り巻く環境は大きく変わり、それに伴う障害者観の変容を受けて、支援・援助のあり方も改善されてきた。このような情勢をふまえ、ノーマライゼーションの理念、教育や福祉の世界でのインテグレーション、インクルージョン、ジョブ・コーチなどの基本的な考え方を把握・理解できるようになる。障害特性の正しい理解と適切な支援・援助のあり方を学び、「障害」とはどのようなかを理解できるようになる。

授 業 内 容

特別支援教育の対象となる、視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病・虚弱、言語障害、情緒障害に加え、現在教育界で注目されている高機能自閉症、学習障害、注意欠陥多動性障害、広汎性発達障害を取り扱う。障害児・者への援助は、まずその「障害」の特性を理解することが第一義である。正しい理解が適切な支援・援助を導き出すという考えの基に、これらの障害特性の理解と支援・援助の要点を定義、概念、原因・症状、心理的特性および指導法・援助の視点から解説し、それぞれの障害の比較・理解を容易にする。

準 備 学 習 等 の 内 容

心身障害者施設、放課後等デイサービス、各種障害者対象のボランティア活動やアルバイト等に積極的に参加し、体験を深めることが望ましい。配布した資料をよく読んで予習・復習しノートにまとめる。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	オリエンテーション DVD「挑戦する教育者見える・聞こえるソビエト」
2	障害の概念
3	視覚障害 DVD「点字で学ぶ」視聴
4	点字実習 DVD「徹子の部屋 指点字」視聴
5	聴覚障害 DVD「聴覚をいかす」視聴
6	知的障害 DVD「ひとりひとりの力をのばす(知的障害)」視聴
7	肢体不自由 DVD「ひとりひとりの力をのばす(肢体不自由)」視聴
8	病・虚弱
9	言語障害
10	情緒障害 DVD「サヴァン症候群」視聴
11	発達障害 DVD「発達障害の基礎的理解」視聴
12	発達障害 DVD「小学校の明日を考える」視聴
13	障害重積深化の心理的プロセス
14	発達援助のための10の原理
15	まとめ

教科書	参考書・参考文献	評価基準
なし	「障害臨床学」中村義行編 ナカニシヤ出版 「よくわかる発達障害」小野次朗著 ミネルヴァ書房	筆記試験(8割) 授業中に課したレポート(2割)

児童福祉論

Theory of Child Welfare

《 2 単位(講義) / 2 年前期 》

2 年 担 当 者

片 山 悟

授 業 到 達 標

現代社会における子どもと家族を取り巻く諸問題と、それに対応する制度や実践について体系的に学ぶことを目的とする。授業の到達目標は以下の通りである。
①子どもと家族の問題を社会的背景や歴史的検討を踏まえて理解することができる。
②児童福祉制度とサービスの内容について理解することができる。
③子どもの権利と児童虐待、さらに社会的養護に関しての理解と考察を深めることができる。

授 業 内 容

講義の前半では、児童家庭福祉の基本的な考え方や社会情勢、歴史、仕組み等の総論的な部分を講義する。
講義の後半から、各グループに分かれ、テーマ別に発表を実施する。
テーマ別発表グループは以下の通りである。①健全育成②母子保健③保育④要養護児童⑤障害児⑥少年非行⑦ひとり親家庭⑧子ども虐待の八つのグループを編成し、その後グループ別に発表し、グループ討論を行ない、学生による評価を実施する。

準 備 学 習 等 の 内 容

児童家庭福祉の分野に関して、特に興味・関心を持ち、意欲的に学習する者のみ受講してもらいたい。教科書の予習は勿論のこと、レポート課題等の提出やグループワークやテーマ別の発表を実施する。よって受講生は、発表レジメや資料等の作成及び提出が課せられる。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	児童家庭福祉の考え方
2	児童家庭福祉を取り巻く状況
3	児童家庭福祉の歴史
4	児童家庭福祉行政の仕組み
5	児童家庭福祉の機関と施設
6	健全育成サービス
7	母子保健サービス
8	保育サービス
9	要保護児童への福祉サービス
10	障がい児福祉サービス
11	少年非行への対応
12	ひとり親家庭への福祉サービス
13	子ども虐待防止とその対応
14	児童家庭福祉の担い手
15	まとめとふりかえり

教科書

参考書・参考文献

評価基準

『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度(第7版)』
新・社会福祉士養成講座
中央法規

学習態度や発表状況等(30%)、筆記試験の結果(70%)
の割合で総合的に勘案し評価する。

障害児・者スポーツ論

Sports for the Disabled

《 2 単位(講義) / 2 年後期 》

2 年

担 当 者

山 野 明

授 業 到 達 標 目

障がい児・者のスポーツ活動をサポートするための知識を身につける。

授 業 内 容

障がいの原因となる病態とその特性、障がいのある方が行っているスポーツについて学ぶ。また、障がい者へのスポーツ指導法と障がいに合わせたスポーツの創造を含んだ内容を展開していく。福岡市障がい者スポーツ大会のボランティア協力を行います。

準 備 学 習 等 の 内 容

日ごろから、障がい者に関するニュースなどをチェックする。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

授 業 テ ー マ		
1	障がい者とスポーツ	
2	障がい者福祉施策と障がい者スポーツ	
3	障がい者福祉施策と障がい者スポーツ、ボランティア論	
4	ボランティア論	
5	障がい者スポーツの意義と理念	
6	障がい者スポーツの意義と理念	
7	安全管理	
8	障害各論 身体障害	
9	障害各論 身体障害	
10	障害各論 知的障害	
11	障害各論 知的障害・精神障害	
12	トレーニング概論	
13	障がい者スポーツ指導者制度	
14	全国障がい者スポーツ大会の概要	
15	まとめ	
教科書	参考書・参考文献	評価基準
なし	新版 障がい者スポーツ指導教本 初級・中級／(公財)日本障がい者スポーツ協会編／ぎょうせい	提出物30%、授業態度15%、まとめのテスト55%

障害児・者スポーツ演習

Exercise in Sports for the Disabled

《 1 単位(演習) / 2 年後期 》

2 年 担 当 者

東 嵩 西 謡 平

授 業 到 達 目 標

- ・ 障がい者スポーツを楽しむことができる。
- ・ 障がい者スポーツのサポートができる。
- ・ 障がい者スポーツをサポートする上で、障害特性に応じた留意点が説明できる。

授 業 内 容

障がい児・者及び高齢者が実際に行っているスポーツを体験し、各種目の特性と運動効果について理解を深めます。また、実際のスポーツ場面において各障害に応じて工夫している点について考えます。視覚障がい者のスポーツはフロアバレーボール、肢体障がい者のスポーツは車いすバスケットボール、重度障がい者のスポーツはボッチャなどのスポーツを行う予定です。

準 備 学 習 等 の 内 容

実技が中心となりますので、日頃から運動の習慣化を図りましょう。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

授 業 テ ー マ		
1	ガイダンス	
2	視覚障がい者のスポーツ	
3	視覚障がい者のスポーツ	
4	視覚障がい者のスポーツ	
5	視覚障がい者のスポーツ	
6	視覚障がい者のスポーツ	
7	肢体障がい者のスポーツ	
8	肢体障がい者のスポーツ	
9	肢体障がい者のスポーツ	
10	重度障がい者のスポーツ	
11	重度障がい者のスポーツ	
12	知的障がい者のスポーツ	
13	障がい者スポーツの考案	
14	障がい者スポーツの考案	
15	障がい者スポーツの考案	
教科書	参考書・参考文献	評価基準
なし	新版 障がい者スポーツ指導教本 初級・中級 / (公財) 日本障がい者スポーツ協会編 / ぎょうせい	受講態度45%、技術の習得度55%

園芸福祉

welfare Horticultur

《 2 単位(講義) / 2 年後期 》

2 年

担 当 者

佐々木 一 成

授 業 到 達 目 標

園芸すなわち身近な場所での植物とのかかわりは、私たち人間にさまざまな効用をもたらしてくれる。それらの効用を理解し、それをひきだす造園・園芸・社会福祉のあり方はいかにあるべきかを考え、将来、初級園芸福祉士として活躍できる知識、技能を習得する。

授 業 内 容

授業では、どうすれば楽しく、無理のない形で誰もが関わられるかということを本人たちの実体験のなかで学ぶことにする。園芸福祉の楽しみや難しさは実習を通じて、理論が実践にどのように結びつくかを学び取って欲しい。

準 備 学 習 等 の 内 容

他の授業で学んだ、植物に関する知識、共同作業の進め方、設計作業など専門的な手法など、全てを実習作業で生かします。必要用具の準備をすること。新しいことを学ぼうという姿勢をすること。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	園芸福祉の基本的な理解		
2	園芸福祉を展開する地域システムの可能性		
3	園芸の効用 1 生産・経済		
4	園芸の効用 2 心理		
5	園芸の効用 3 環境		
6	園芸の効用 4 社会		
7	園芸の効用 5 教育		
8	園芸の効用 6 精神		
9	実践するためのノウハウやカリキュラムづくり		
10	園芸福祉の日本の現状		
11	園芸福祉の諸外国の実情		
12	活動の運営のマネジメント		
13	プログラムづくりと実習		
14	モデルプランの計画設計		
15	まとめ		
教科書(必須)		参考書・参考文献	評価基準
「園芸福祉入門」 進士五十八・吉長成恭監修 日本園芸福祉普及協会編 創森社出版		「日比谷公園」進士五十八 「植物と人間の絆」チャールズ・ A・ルイス著	課題提出60%、受講態度30%、演習の取り組み10%

手話

Sign Language

《 1 単位(演習) / 2 年前期 》

2 年 担 当 者

福 田 九

授 業 到 達 標

手話はろう者の言葉、もしくはろうあ運動から昇華してきた歴史がある。最近では、ろう者による当事者組織である（一財）全日本ろうあ連盟が中心となって進めている手話言語法制定運動の全国的な取り組み、展開から地域では手話言語条例を制定しているところが増え、手話文化が定着している。手話コミュニケーションを図るためには、スピーキング能力が不可欠であり、本講義では自分のことを手話で話し、身近なテーマについて手話で意見を述べるができるような力を育成する。

授 業 内 容

手話でのスピーキング能力を育成するために、様々な状況やテーマで一般的に使われる表現を学ぶ。基本的な文例表現を通して手話単語の語彙を増やすようにし、ただ手話単語を覚えるだけでなくろう者の暮らしや経験を通してまとまった考えを伝えることができるようにする。併せて実践練習を通して、ことばだけでなくジェスチャーも使いながら自然に手話で話せる能力を身につける。

準 備 学 習 等 の 内 容

事前事後学習については、講義毎に指示する。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	オリエンテーション（『手話単語を覚えることより手話を経験しよう』）
2	手話の仕組み
3	同音異義語と手話表現
4	指文字を覚えよう
5	あいさつ・名前・家族の紹介
6	出身地・地名
7	一日の生活・通勤・通学
8	趣味・スポーツ
9	旅行・観光地
10	仕事
11	病院・病気
12	基本用語を確実に身につけよう(1)
13	基本用語を確実に身につけよう(2)
14	クイズ手話の反対語を探そう！
15	まとめ

教科書	参考書・参考文献	評価基準
新手話ハンドブック （一財）全日本ろうあ連盟 （三省堂）	授業時に紹介する。	試験（筆記・実技）100%

レクリエーション活動援助法Ⅱ

Recreation Activity Ⅱ

《 1 単位(演習) / 2 年前期 》

2 年

担 当 者

波多江 磨里子

授 業 到 達 標

レクリエーション理論、レクリエーション活動援助法ⅠBで学んだことを基に、対象者の主体性を引き出し、権利としてのレクリエーションを尊重することができるレクリエーションワーカーとして必要な理論・技術を身につけ、レクリエーションプログラムの作成・展開を実施できるようにする。

授 業 内 容

- ・ 社会福祉の現場や地域の中で必要なレクリエーション活動、アクティビティを体験
- ・ 様々な対象者を想定したレクリエーション活動援助プログラムの作成・演習

準 備 学 習 等 の 内 容

- ・ 毎回宿題があります。テキスト・プリント（レジュメ）をもとに予習・復習をして下さい。
- ・ 図書館（本）、インターネットなどを利用した素材・アクティビティの研究が必要です。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

授 業 テ ー マ		
1	オリエンテーション レクリエーションとは	
2	レクリエーション活動の習得 1	
3	〃 2	
4	〃 3	
5	安全管理の方法	
6	レクリエーション支援のプログラムの立案方法	
7	レクリエーション支援のプログラムの立案 1	
8	〃 2	
9	レクリエーション支援の実施 1（総合演習）	
10	〃 2（ 〃 ）	
11	〃 3（ 〃 ）	
12	〃 4（ 〃 ）	
13	〃 5（ 〃 ）	
14	〃 6（ 〃 ）	
15	まとめ	
教科書	参考書・参考文献	評価基準
・ 楽しさとおした心の元気づくり ・ 楽しいをつくる （1年生で使用したもの）		授業の修得度（4割）、授業の参画態度（4割）、提出物（2割）

介護の基礎Ⅲ

Fundamental Care Theory Ⅲ

《 1 単位(演習) / 2 年前期 》

2 年 担 当 者

古賀さと子・中野幹子・片山悟・一山幸子・川井小百合・折居明日香・田邊伸一

授 業 到 達 標 目

国家試験の合格を目指し、試験問題に対応できるよう問題を解く力や問題を読み解く力を伸ばすことができる。

授 業 内 容

国家試験で出題される各領域のポイントにしぼった問題を抽出し、留学生に特化した試験対策内容の授業を行う。

準 備 学 習 等 の 内 容

- ・ 授業で学んだ内容を忘れないように必ず復習しましょう。
- ・ 授業が学び合う雰囲気となるように、1人ひとりが意欲を持ち取り組んでください。

授 業 計 画 等

授 業 テ ー マ

1	国家試験対策講座①
2	国家試験対策講座②
3	国家試験対策講座③
4	国家試験対策講座④
5	国家試験対策講座⑤
6	国家試験対策講座⑥
7	国家試験対策講座⑦
8	国家試験対策講座⑧
9	国家試験対策講座⑨
10	国家試験対策講座⑩
11	国家試験対策講座⑪
12	国家試験対策講座⑫
13	国家試験対策講座⑬
14	国家試験対策講座⑭
15	まとめ

教科書	参考書・参考文献	評価基準
必要に応じてプリントを配布	「外国人のための介護福祉士国家試験対策」「始めよう介護福祉士 国家試験対策」他 一般財団法人国際交流&日本語支援	受講態度20%、試験結果80%を総合的に評価する。 6回以上休むと失格となる。

発行日 2019年3月

発行者 西日本短期大学

〒810-0066

福岡県福岡市中央区福浜1-3-1

TEL 092-721-1141 (代表) 092-721-1152 (学務課直通)

学籍番号		氏名	
------	--	----	--

在学中の講義要項は、編入時の単位認定や資格取得時に提示を求められることがありますので、卒業後も各自保管してください。